

CZ-431-031



1200901599211

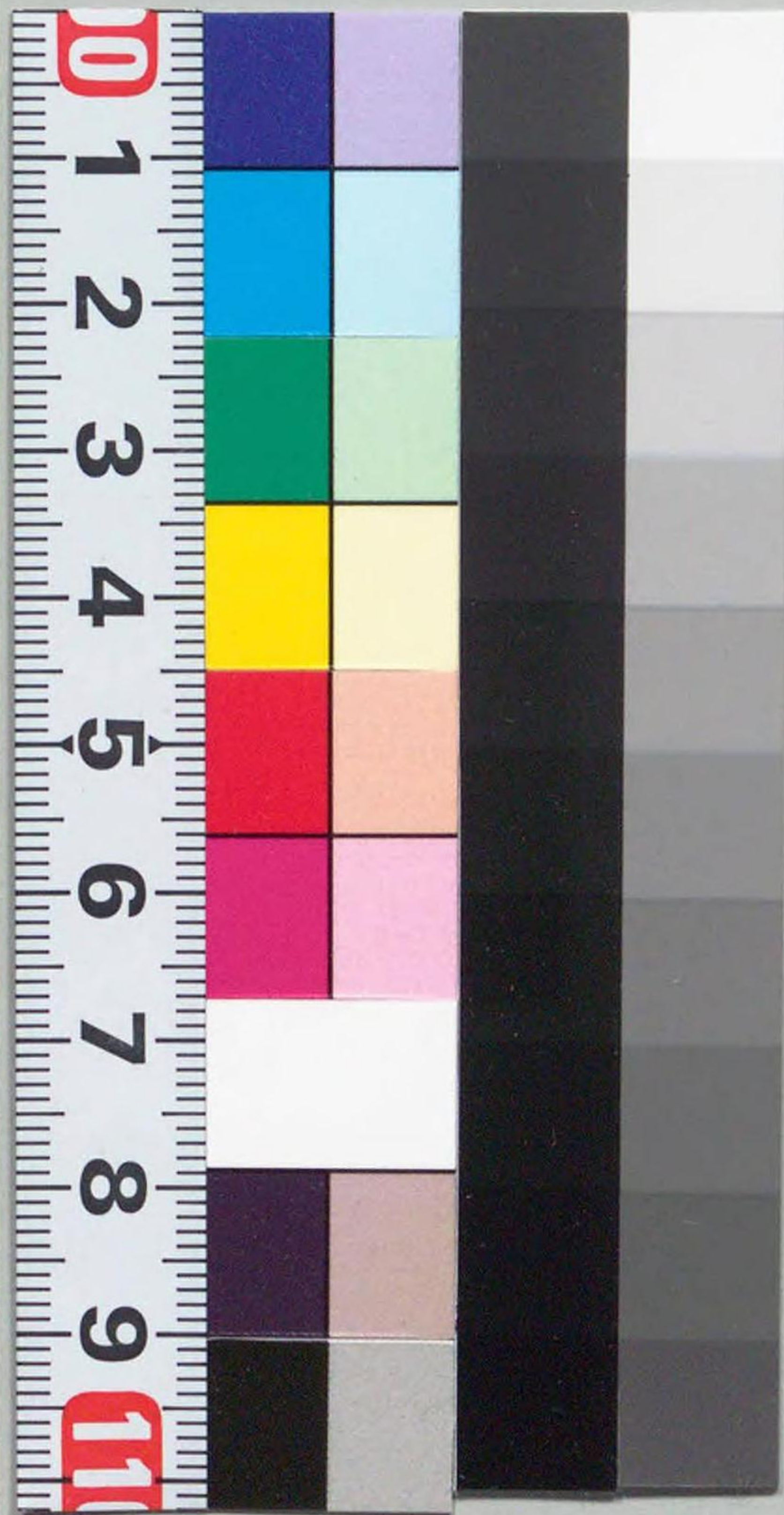
狩獵關係法規

十年六月

CZ
431
031



農商務省畜產課



C2
431
031

147-202

狩獵法

明治三十四年四月十二日

法律第三十三號

改正 明治四十三年

法律第十三號

改正 大正七年四月二日

法律第三十二號

總、農、大、大臣副署

第三條

狩獵鳥獸以外ノ鳥獸ハ之ヲ捕

獲スルコトヲ得ス

狩獵鳥獸ノ種類ハ主務大臣之ヲ定ム

主務大臣 特殊ノ狩獵鳥獸ノ保護蕃殖ノ爲必要ト認ムルトキハ區域ヲ定メ其ノ捕獲ヲ禁止又ハ制限スルコトヲ得

第二條

狩獵鳥類ノ雛及鳥類ノ卵ハ主務大臣ノ定ムルモノヲ除クノ外之ヲ捕獲又ハ採取スルコトヲ得

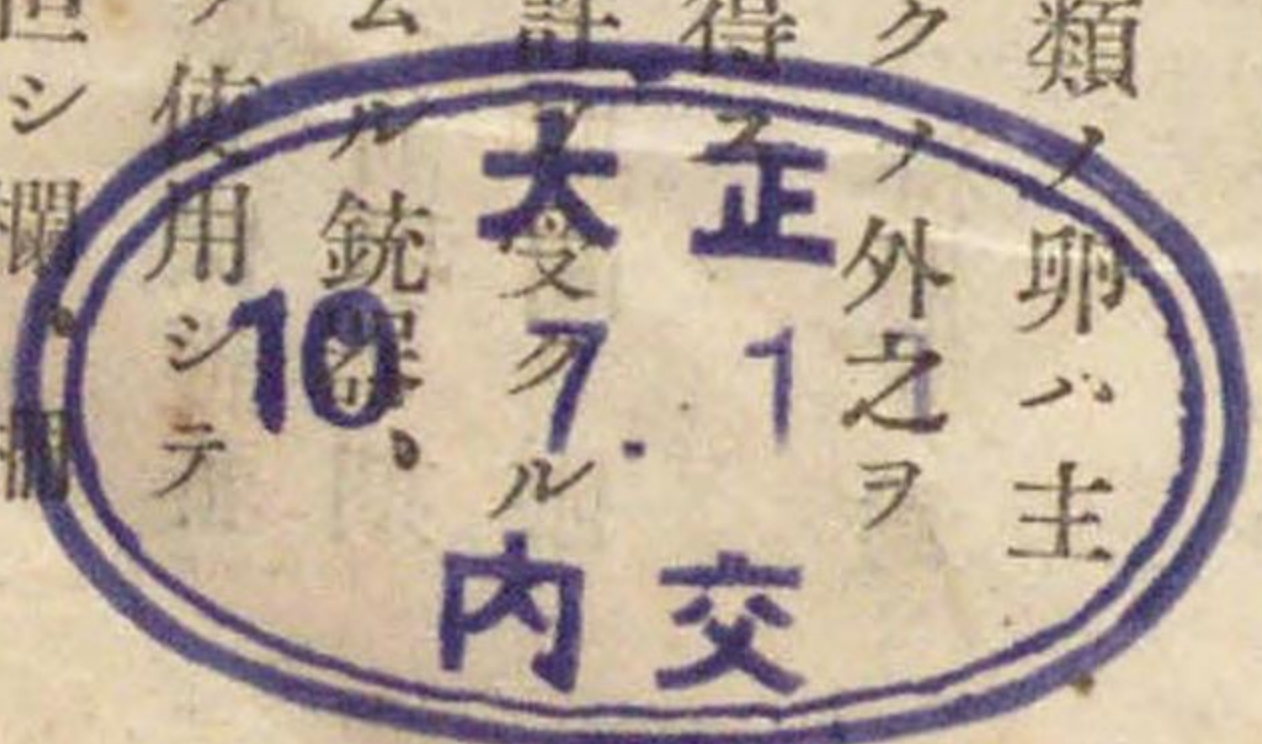
正 1 交

第三條

狩獵鳥獸ハ狩獵免許ヲ受ケル内ニ非サレハ主務大臣ノ定ムル銃、網、竊繩、揆、鉤又ハ毘ヲ使用シテ

之ヲ捕獲スルコトヲ得ス但シ柵、柵

其他ノ圍障アル邸宅地域内ニ於テ銃器ヲ使用セスシテ捕獲スル場合ハ此



ノ限ニ在ラス

第四條 地方長官必要ト認ムルトキハ
主務大臣ノ認可ヲ受ケ前條ノ規定ニ
依ル獵具ノ使用以外ノ方法ヲ以テス
ル狩獵鳥獸ノ捕獲ヲ禁止又ハ制限ス
ルコトヲ得

第五條 狩獵免許ハ甲乙ノ二種トシ狩
獵免狀ヲ下付ス

甲種狩獵免狀ハ銃器ノ使用以外ノ方
法ヲ以テ狩獵ヲ爲ス者ニ、乙種狩獵
免狀ハ銃器ヲ使用シテ狩獵ヲ爲ス者
ニ之ヲ下付ス
狩獵免狀ノ有効期間ハ十月十五日ヨ

リ翌年四月十五日迄トス但シ北海道

ニ於テハ九月十五日ヨリ翌年四月十
五日迄トス

主務大臣ハ特殊ノ狩獵鳥獸ノ保護蕃
殖ノ爲必要ト認ムルトキハ前項ノ期
間内ニ於テ特ニ其ノ狩獵ノ期間ヲ限
定スルコトヲ得

前二項ノ期間内ニ非サレハ狩獵ヲ爲
スコトヲ得ス

第六條 本法又ハ本法ニ基キテ發スル
命令ニ違反シ罰金ニ處セラレタル者
ハ一年ヲ經過スルニ非サレハ狩獵免
許ヲ受クコトヲ得ス

第七條 未成年者、白痴者又ハ瘋癲者

ハ乙種狩獵免許ヲ受クルコトヲ得ス

乙種狩獵免許ヲ受ケタル者白痴者又

ハ瘋癲者ト爲リタルトキハ地方長官

ハ其ノ免許ヲ取消スヘシ

第八條 狩獵免許ヲ受クル者ハ甲乙各
種ニ付左ノ區別ニ從ヒ免許稅ヲ納ム

第一等

地租五百圓以上、營業稅百五十圓以
上若ハ所得稅百圓以上ヲ納ムル者又
ハ其ノ家族

第二等

地租三十圓以上、營業稅二十圓以上
若ハ所得稅ヲ納ムル者又ハ其ノ家族

第三等

一等及二等以外ノ者

五圓

前項ノ免許稅ハ收入印紙ヲ以テ之ヲ
納ムヘシ

第九條 主務大臣又ハ地方長官ハ鳥獸

ノ保護蕃殖ノ爲又ハ土地所有者ノ出

願其ノ他ノ事由ニ因リ必要ト認ムル

場合ニ於テハ十年以内ノ期間ヲ定メ

禁獵區ヲ設クルコトヲ得

第十條 地方長官ハ危險豫防ノ爲其ノ

他必要ト認ムルトキハ銃獵禁止區域

ヲ設クルコトヲ得

第十一條 左ニ掲クル場所ニ於テハ狩

獵ヲ爲スコトヲ得ス

第一三御 前獵場

二三禁 一獵区ニ區以テハ、

三公 道

四公 園

五社 寺境内

六墓 地

第十二條 學術研究又ハ有害鳥獸驅除

ヲ爲其ノ他特別ノ事由ニ因リ主務大

臣又ハ地方長官ノ許可ヲ受ケタル場

合ニ於テハ前數條ノ規定ニ拘ラス鳥

獸ヲ捕獲シ又ハ鳥類ノ卵ヲ採取スル

コトヲ得

主務大臣又ハ地方長官前項ノ許可ヲ

爲シタルトキハ許可證ヲ下附ス

第十三條 前條第一項ノ規定ニ依リ捕

獲シタル鳥獸又ハ採取シタル鳥類ノ

卵ハ之ヲ讓渡シ又ハ讓受タルコトヲ

得ス但シ警察官署ノ許可ヲ受ケタル

トキハ此ノ限ニ在ラス

第十四條 國、道府縣、郡又ハ市町村

ハ命令ノ定ムル所ニ依リ獵區ヲ設定

スルコトヲ得

第十五條 爆發物、劇藥、毒藥、据銃

又ハ危險ナル器若ハ陷穽ヲ使用シテ

鳥獸ヲ捕獲スルコトヲ得ス

第十六條 日出前若ハ日没後、市街其

ノ他人家稠密ノ場所若ハ衆人群集ノ

場所ニ於テ又ハ銃丸ノ達スヘキ虞ア

ル人畜、建物、汽車、電車若ハ艦船

ニ向テ銃獵ヲ爲スコトヲ得ス

第十七條 欄柵其ノ他ノ圍障又ハ作物

アル土地ニ於テハ占有者、共同狩獵

地ニ於テハ免許ヲ受ケタル者ノ承諾

ヲ得ルニ非サレハ狩獵又ハ第十二條

第一項ノ規定ニ依ル鳥獸ノ捕獲ヲ爲

スコトヲ得ス

第十八條 獵區ニ於テハ獵區設定者ノ

承認ヲ得ルニ非サレハ狩獵又ハ第十

二條第一項ノ規定ニ依ル鳥獸ノ捕獲

ヲ爲スコトヲ得ス

第十九條 狩獵免許ヲ受ケタル者又ハ

第十二條第一項ノ許可ヲ受ケタル者

鳥獸ヲ捕獲シ又ハ鳥類ノ卵ヲ採取セ

ムトスルトキハ狩獵免狀又ハ許可證

ヲ携帯スヘシ

警察官吏、憲兵、森林官吏又ハ市町

村長ハ前項ノ規定ニ依リ携帯スヘキ

狩獵免狀若ハ許可證又ハ捕獲シタル

鳥獸若ハ採取シタル鳥類ノ卵ヲ検査

スルコトヲ得

第二十條 本法又ハ本法ニ基キテ發ス

ル命令ニ違反シテ捕獲シタル鳥獸又

ハ採取シタル鳥類ノ卵ハ之ヲ讓渡シ

又ハ讓受クルコトヲ得ス

第二十一條 左ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ五百圓以下ノ罰金ニ處ス

- 一 第三條、第十一條、第十五條又ハ第十六條ノ規定ニ違反シタル者
- 二 詐欺ノ行爲ヲ以テ狩獵免許又ハ

第十二條第一項ノ許可ヲ受ケタル者第三條又ハ第十五條ノ規定ニ違反スル犯罪ノ用ニ供シタル物件及其ノ犯罪ニ因リテ得タル獵獲物ニシテ犯人ノ所有シ又ハ所持スルモノハ之ヲ沒收ス

第二十二條 左ノ各號ノ一ニ該當スル

- 二項ノ規定ニ依ル検査ヲ拒ミタル者

五 狩獵免許又ハ第十二條第二項ノ

許可證ヲ他人ニ使用セシメタル者
 第二十三條 御獵場、禁獵區、銃獵禁止區域、獵區又ハ共同狩獵地ノ標識ヲ移轉、汚損、毀壞又ハ除却シタル者ハ五十圓以下ノ罰金又ハ科料ニ處ス

第二十四條 狩獵免許又ハ第十二條第一項ノ許可ヲ受ケタル者本法又ハ本法ニ基キテ發スル命令ニ違反シ罰金ニ處セラレタルトキハ其ノ狩獵免許

者ハ三百圓以下ノ罰金ニ處ス但シ第十七條ノ規定ニ違反シタル罪ハ占有者又ハ共同狩獵地ノ免許ヲ受ケタル者ノ告訴ヲ待テ之ヲ論ス

- 一 第一條第一項、第二條、第五條第五項、第十三條、第十七條、第十八條又ハ第二十條ノ規定ニ違反シタル者
- 二 第一條第三項ノ規定ニ依ル禁止又ハ制限ニ違反シタル者
- 三 銃獵禁止區域ニ於テ銃獵ヲ爲シタル者

四 正當ノ事由ナクシテ第十九條第

二項ノ規定ニ依ル検査ヲ拒ミタル

又ハ許可ハ效力ヲ失フ

第二十五條 第十九條第一項ノ規定ニ違反シタル者ハ科料ニ處ス

第二十六條 本法中地方長官トアルハ東京府ニ於テハ警視總監トス
 本法中市町村又ハ市町村長トアルハ市制又ハ町村制ヲ施行セサル地ニ於テハ之ニ準スヘキモノトス

附 則

第二十七條 本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム
 第二十八條 明治三十年法律第七號ハ之ヲ廢止ス

第二十九條 舊法ニ依リ爲シタル許可

ニ付テハ仍從前ノ例ニ依ル舊法ニ依リ設ケタル禁獵區又ハ銃獵禁止ノ區域ハ之ヲ本法ニ依リ設ケタル禁獵區又ハ銃獵禁止區域ト看做ス

第三十條 本法施行前爲シタル共同狩

獵地ノ免許ハ仍其ノ効力ヲ有ス
前項免許ノ期間ハ申請ニ因リ之ヲ更新スルコトヲ得

第三十一條 狩獵免許ヲ受ケタル者舊

法第二十一條乃至第二十三條ノ規定ニ依リ處罰セラレタルトキハ其ノ狩獵免許ハ効力ヲ失フ此ノ場合ニ於テ

本

ハ一年ヲ經過スルニ非サレハ狩獵免許ヲ受クルコトヲ得ス

狩獵法改正法律施行

期日ノ件

大正八年八月十五日

總、農、大、大臣副署

勅令第三百八十一號

大正七年法律第三十二號ハ大正八年九月一日ヨリ之ヲ施行ス

狩獵法施行規則

明治三十四年六月二十六日

農商務省令第七號

改正 明治三十四年第九號

同 四十一年第十八號

同 四十五年第十四號

大正三年第二十八號

同 五年第二號

同 八年八月十五日第二十八號

同 十年三月三日第三號

第一條 狩獵鳥獸ノ種類左ノ如シ

鋸嘴鴨	鶺鴒	鶺鴒	鶺鴒	鶺鴒
鶺鴒	鶺鴒	鶺鴒	鶺鴒	鶺鴒
鶺鴒	鶺鴒	鶺鴒	鶺鴒	鶺鴒
鶺鴒	鶺鴒	鶺鴒	鶺鴒	鶺鴒
鶺鴒	鶺鴒	鶺鴒	鶺鴒	鶺鴒
鶺鴒	鶺鴒	鶺鴒	鶺鴒	鶺鴒

河原鶉 鴨 鴉(星除鴉) 雁

雉 秧鷄 熊鷹 黑鴨

計里 五位鶯 鶺鴒 蠟嘴

白腹雀 大膳千鳥

鴉(虎鴉及黑) 入内雀 野鴉 鶉

鳩 隼 鶉 鶉

金翅雀 類白 猿子 眉茶鷓

鶉 深山類白 胸黒 鶉 雉

鶉 松鷄 鴛鴦 鶉 雉

獸類各種(但シ奄美ノ黒兎ヲ除ク) 第二條 左ノ鳥類ノ狩獵期間ハ十一月

一日ヨリ翌年二月末日迄トス

雉 鶉 雉 左ノ獸類ノ狩獵期間ハ十二月一日ヨ

リ翌年二月末日迄トス

狸 貂 貍鼠 栗鼠 狐 鹿

第三條 農商務大臣狩獵法第一條第三

項ノ規定ニ依リ狩獵鳥獸ノ捕獲ヲ禁

止又ハ制限シタルトキハ鳥獸ノ名稱

禁止又ハ制限シタル獵法、期間及區

域ヲ告示スヘシ地方長官狩獵法第四

條ノ規定ニ依リ狩獵鳥獸ノ捕獲ヲ禁

止又ハ制限シタルトキ亦前ニ同シ

第四條 狩獵法第三條ノ規定ニ依ル獵

具左ノ如シ

一 銃器 裝藥銃及散彈ヲ使用シ得

ヘキ空氣銃

二 網 罟罟、霞網其ノ他張網、

突網及投網

三 藜繩 流シ藜及張藜繩

四 簇 高簇及千本簇

五 鉤 流シ鉤

六 罟 鶉罟、兎罟其ノ他ノ括罟

第五條 狩獵免許ヲ受ケムトスル者ハ

地方長官ニ出願シ狩獵免狀ノ下付ヲ

受クヘシ

前項ノ願書ニハ左ノ事項ヲ記載シ一

等免狀ヲ受ケムトスル者ヲ除クノ外

狩獵法第八條第一項ニ定ムル稅額ニ

關スル證明書ヲ添附スヘシ

一 免許ノ種類及等級

二 出願者ノ身分、職業、氏名、住

所及生年月日

三 狩獵法又ハ本則ノ規定ニ依リ罰

金ニ處セラレタルコトノ有無及罰

金ニ處セラレタルコトアルトキハ

其ノ年月日

第六條 狩獵法第八條第二項ノ收入印

紙ハ之ヲ前條ノ願書ニ貼付シ消印ヲ

爲サスシテ差出スヘシ

第七條 狩獵法第十二條第一項ノ許可

ヲ受ケムトスル者ハ飼養又ハ有害鳥獸ノ驅除ヲ目的トスル場合ニ於テハ地方長官ニ其ノ他ノ場合ニ於テハ農商務大臣ニ出願シ鳥獸捕獲許可證ノ下付ヲ受クヘシ

前項ノ願書ニハ左ノ事項ヲ記載スヘシ

一 出願書ノ職業、氏名、住所及生

年月日

二 捕獲スヘキ鳥獸又ハ採取スヘキ

卵ノ種類及員數

三 捕獲又ハ採取ノ目的、期間、區

域及方法

狩獵法第十一條ニ掲クル場所又ハ獵區内ニ於テ鳥獸ヲ捕獲シ若ハ卵ヲ採取セムトスル場合ニ於テハ前項ノ外其ノ旨ヲ記載スヘシ

條八條 狩獵免許又ハ狩獵法第十二條

第一項ノ許可ヲ受ケタル者其ノ住所若ハ氏名ヲ變更シタルトキハ二週間内ニ其ノ旨ヲ所轄警察官署ニ届出スヘシ

新住所地カ他ノ地方長官ノ管轄ニ屬スルトキハ前項ノ期間内ニ免許ノ種

類及等級並身分、職業、氏名、住所

及生年月日ヲ新住所地ノ地方長官ニ

届出ツヘシ

第九條 狩獵免許又ハ鳥獸捕獲許可證

ノ下付ヲ受ケタル者之ヲ亡失シタルトキハ其ノ事由ヲ記載シ遲滞ナク當初之ヲ下付シタル官廳ニ届出ツヘシ
前項ノ届出アリタルトキハ農商務大臣又ハ地方長官ハ其ノ旨ヲ公告スヘシ

第十條 狩獵免許又ハ鳥獸捕獲許可證

ヲ亡失又ハ毀損シタルトキハ其ノ再渡ヲ請求スルコトヲ得

第十一條 狩獵免許又ハ鳥獸捕獲許可

證ノ下付ヲ受ケタル者ハ其ノ效力ヲ失ヒタル日ヨリ三十日内ニ當初之ヲ下付シタル官廳ニ之ヲ返納スヘシ
前項ノ規定ニ依リ鳥獸捕獲許可證ヲ返納スル場合ニ於テハ其ノ捕獲シタル鳥獸又ハ採取シタル卵ノ種類及員數ヲ届出スヘシ

第十二條 禁獵區ハ御料地又ハ國有地

ヲ其ノ區域トセス且其ノ區域ニ府縣以上ニ互ラサル場合ニ於テハ地方長官、其ノ他ノ場合ニ於テハ農商務大臣之ヲ設ク

第十三條 農商務大臣又ハ地方長官禁

獵區ヲ設ケタルトキハ其ノ區域及存

續期間ヲ告示スヘシ

禁獵區ヲ廢止シ又ハ其ノ區域若ハ存

續期間ヲ變更シタルトキ亦同シ

第十四條 農商務大臣又ハ地方長官ハ

禁獵區ヲ表示スル爲其ノ周圍ノ隅角

及見易キ場所ニ百二十間ヲ超エサル

間隔ヲ以テ木標ヲ設クヘシ但シ土地

ノ狀況ニ依リ其ノ區域分明ナル場合

ニ於テハ木標ノ間隔ヲ延長シ又ハ制

札ヲ以テ之ニ代フルコトヲ得

土地所有者ノ出願ニ依リ設ケタル禁

獵區ニ付テハ農商務大臣又ハ地方長

官ハ出願者ヲシテ前項ノ木標又ハ制

札ヲ設ケシムルコトヲ得

第十五條 地方長官ハ銃獵禁止區域ヲ

表示スル爲其場所ニ制札ヲ設クヘシ

第十六條 獵區ノ存續期間ハ二十年以

内トス

前項ノ期間ハ農商務大臣ノ認可ヲ受

ケ之ヲ更新スルコトヲ得

第十七條 獵區ハ三百町歩以上ノ面積

タルコトヲ要ス但シ農商務大臣ニ於

テ特別ノ事由アリト認めタル場合ハ

此ノ限ニ在ラス

第十八條 獵區ハ其ノ區域内ノ土地ノ

上ニ登記シタル權利ヲ有スル者ノ同

意ヲ得ルニ非サレハ之ヲ設定スルコ

トヲ得ス

第十九條 獵區設定者ハ抽籤ノ方法ニ

依ルニ非サレハ狩獵法第十八條ノ規

定ニ依ル承認ニ付狩獵者ノ員數ヲ制

限スルコトヲ得ス

第二十條 獵區設定者ハ正當ナル事由

アル場合ヲ除クノ外狩獵法第十二條

第一項ノ許可ヲ受ケタル者ニ對シ狩

獵法第十八條ノ規定ニ依ル承認ヲ拒

ムコトヲ得ス

第二十一條 獵區設定者狩獵法第十八

條ノ規定ニ依ル承認ヲ爲シタルトキ

ハ承認證ヲ交付スヘシ

第二十二條 獵區設定者ハ狩獵法第十

八條ノ規定ニ依ル承認ヲ受ケムトス

ル者ヲシテ一日ニ付二圓以内ノ承認

料ヲ納付セシムルコトヲ得但シ特別

ノ事由アル場合ハ此ノ限リニ在ラ

ス

前項ノ規定ハ地方長官ノ許可ヲ得テ

有害鳥獸ノ驅除ノ爲捕獲ヲ爲ス者ニ

對シテハ之ヲ適用セス

第二十三條 獵區内ニ於テ狩獵又ハ狩

獵法第十二條第一項ノ規定ニ依ル鳥獸ノ捕獲ヲ爲サムトスルトキハ第二

十一條ノ承認證ヲ携帶スヘシ

第二十四條 獵區設定者ハ農商務大臣

ノ認可ヲ受ケ狩獵者ニ對シ其ノ捕獲

スヘキ鳥獸ノ種類又ハ獵具ヲ制限ス

ルコトヲ得

第二十五條 獵區ヲ設定セムトスル者

ハ左ノ事項ヲ記載シタル書面ヲ差出

シ農商務大臣ノ認可ヲ受クヘシ

一 獵區ノ名稱

二 事務所ノ位置

三 獵區ノ區域

四 獵區ト爲サムトスル土地ノ地目

別面積又ハ海面ノ面積

五 獵區ノ存續期間

六 第二十二條ノ承認料額

七 狩獵日ヲ制限セムトスルトキハ

其ノ方法及日數、狩獵者ノ員數ヲ

制限セムトスルトキハ其ノ員數

八 鳥獸ノ保護蕃殖ヲ爲ス場合ニ於

テハ其ノ方法

九 獵區内ニ於ケル鳥獸棲息ノ狀況

前項ノ書面ニハ獵區ノ區域及位置ヲ

示ス圖面、第十八條ノ同意ヲ證スル

書面並獵區設定ニ關スル決議ヲ證ス

ル書面ヲ添附スヘシ

第二十六條 獵區設定者前條第一項第

三號、第五號又ハ第六號ノ事項ヲ變

更セムトスルトキハ其ノ事由ヲ記載

シタル書面ヲ差出シ農商務大臣ノ認

可ヲ受クヘシ

前條第一項第三號ノ事項ヲ變更セム

トスル場合ニ於テハ其ノ申請書ニ區

域内ニ編入スヘキ土地アルトキハ第

十八條ノ同意ヲ證スル書面ヲ添附ス

ヘシ

第二十七條 第十六條第二項ノ規定ニ

依ル認可ヲ申請セムトスルトキハ更

新ノ期間ヲ定メ申請書ニ第十八條ノ

同意ヲ證スル書面ヲ添附シ期間滿了

ノ日ヨリ三月前ニ之ヲ農商務大臣ニ

差出スヘシ

第二十八條 獵區設定者第二十五條第

一項第一號又ハ第二號ノ事項ヲ變更

シタルトキハ遲滯ナク其ノ旨ヲ農商

務大臣ニ届出ツヘシ

第二十九條 農商務大臣獵區ノ設定又

ハ第十六條第二項ノ規定ニ依ル認可

ヲ爲シタルトキハ第二十五條第一項

第一號乃至第三號、第五號及第六號

ノ事項、第二十四條又ハ第二十六條

ノ規定ニ依ル認可ヲ爲シタルトキ若
ハ前條ノ届出ヲ受理シタルトキハ其
ノ事項ヲ告示スヘシ

第三十二條 獵區設定者ハ獵區ノ區域
ヲ表示スル爲必要ナル標識ヲ設クヘ
シ

第三十三條 獵區設定者獵區ヲ廢止シ
タルトキハ遲滯ナク之ヲ農商務大臣
ニ届出ツヘシ

第三十四條 農商務大臣必要ト認ムル
前項ノ届出アリタルトキハ農商務大
臣ハ其ノ旨ヲ告示スヘシ

第三十一條 獵區管理者又ハ巡守ハ何
時ニテモ獵區内ニ於テ鳥獸ヲ捕獲シ
又ハ鳥類ノ卵ヲ採取スル者ニ付第二
十一條ノ承認證ノ提示ヲ求ムルコト
ヲ得

要ナル處分ヲ爲スコトヲ得

第三十五條 第九條第一項又ハ第十一
條ノ規定ニ違反シタル者ハ科料ニ處
ス

第三十六條 本則ニ依リ農商務大臣ニ
差出スヘキ書類ハ地方長官ヲ經由ス
ヘシ

第三十七條 本則中地方長官トアルハ
東京府ニ於テハ警視總監トス

附則
第三十八條 本則ハ狩獵法施行ノ日ヨ
リ之ヲ施行ス

第三十九條 共同狩獵地ノ免許期間ノ

更新ヲ申請セムトスル者ハ其ノ更新
ノ期間ヲ定メ申請書ニ區域内ノ土地
所有者ノ同意ヲ證スル書面ヲ添附シ
期間滿了ノ日ヨリ三月前ニ之ヲ農商
務大臣ニ差出スヘシ

第四十條 共同狩獵地ニ付テハ前條ノ
外仍從前ノ例ニ依ル

狩獵免狀其ノ他雛形

二關スル件

農商務省告示第二百二十號

改正 大正十年三月三日

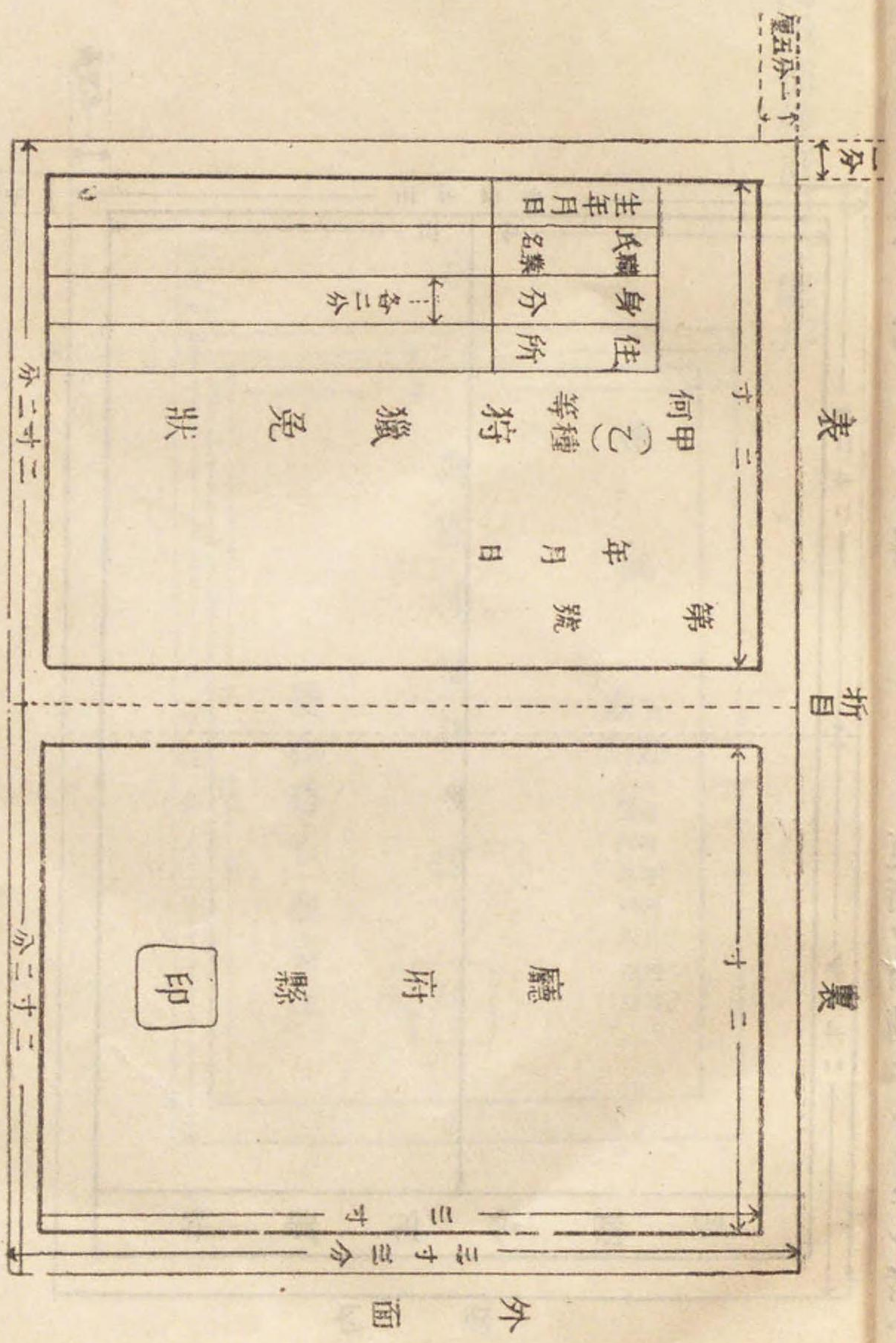
同 第三十三號

狩獵免狀、鳥獸捕獲許可證、禁獵區ノ木標又ハ制札、銃獵禁止區域ノ制札及獵區管理者又ハ巡守ノ携帶スヘキ證票ノ雛形左ノ通定ム

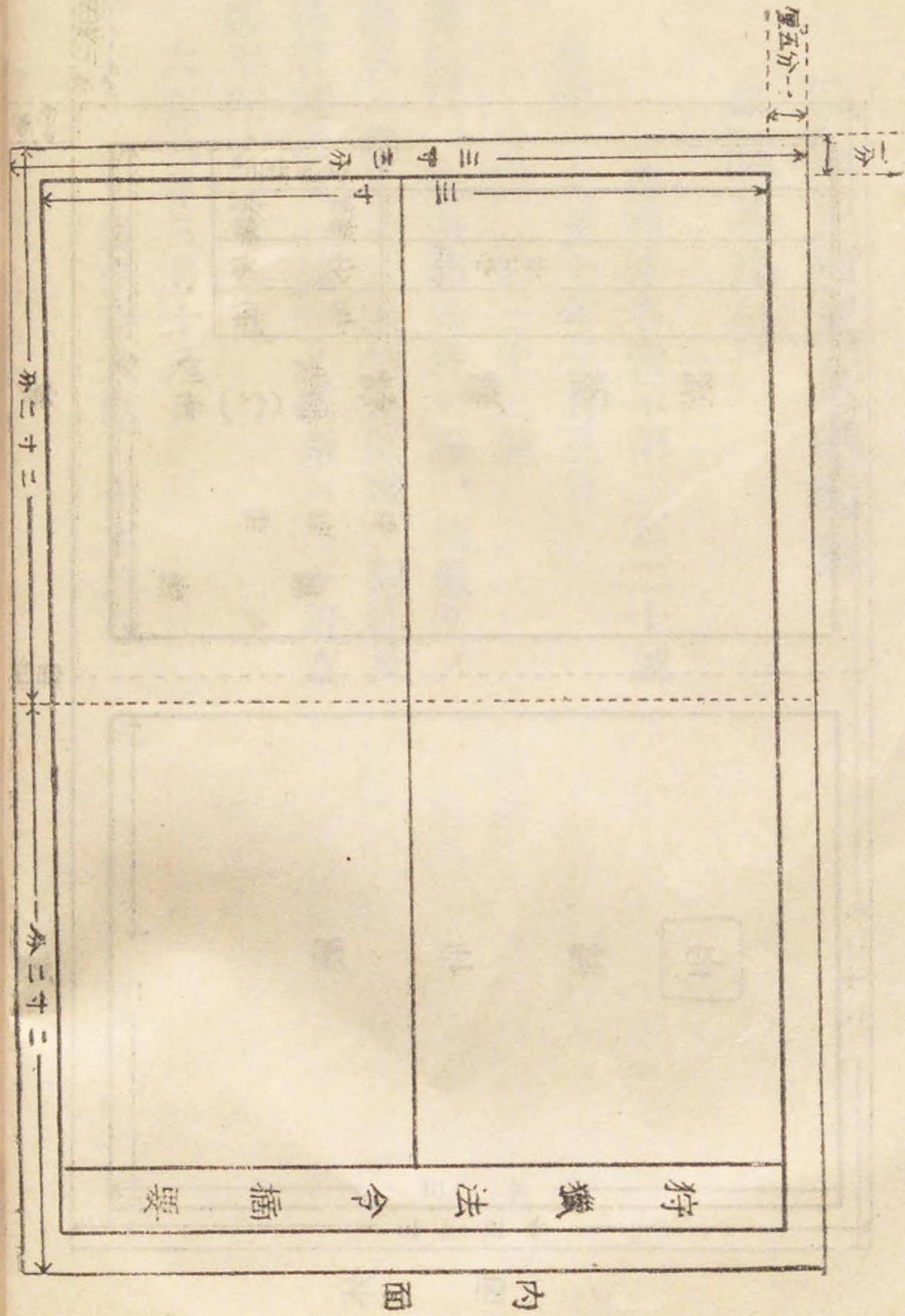
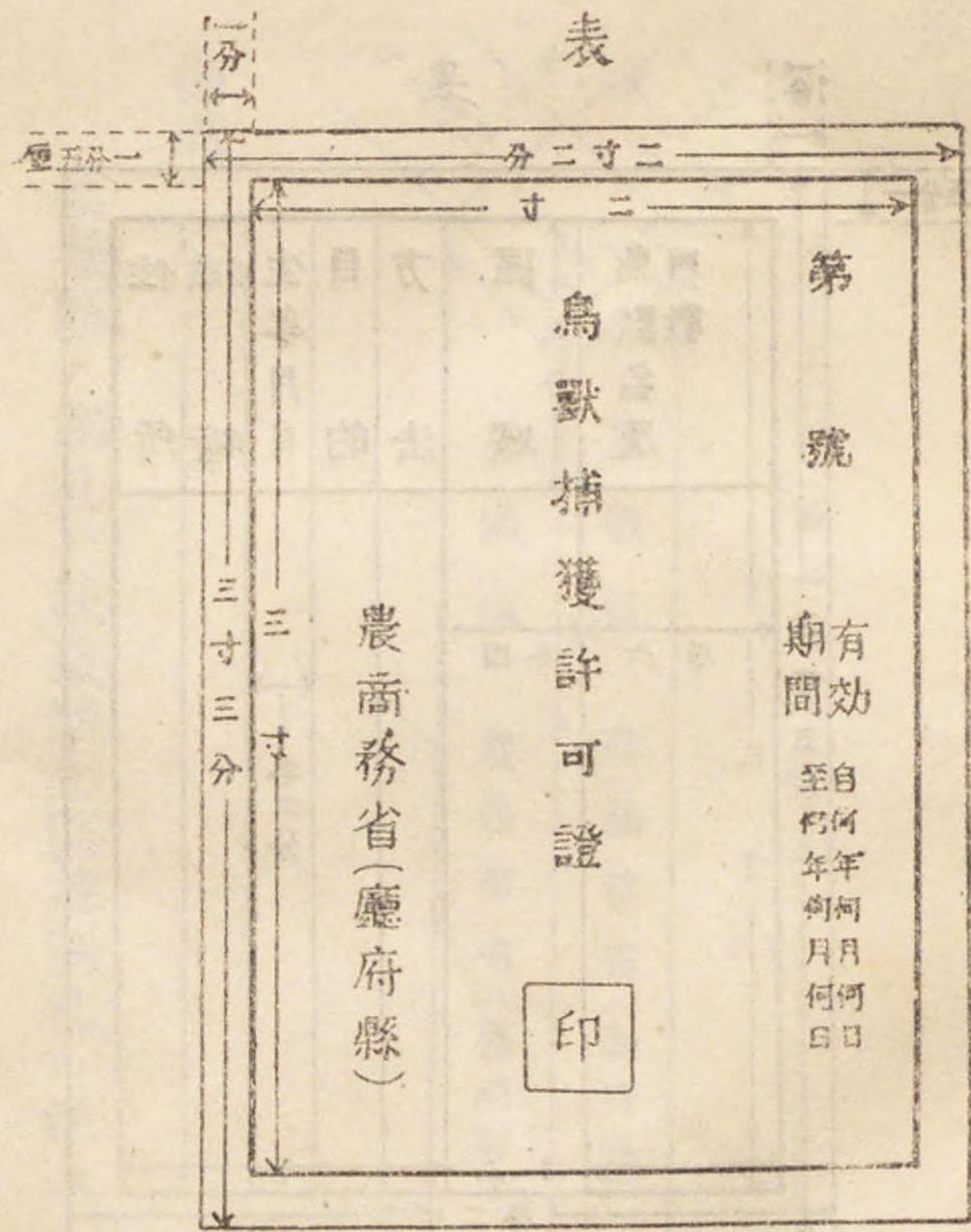
大正八年八月十八日

農商務大臣 山本達雄

狩獵免狀 形(甲種、綠色、乙種、白色)

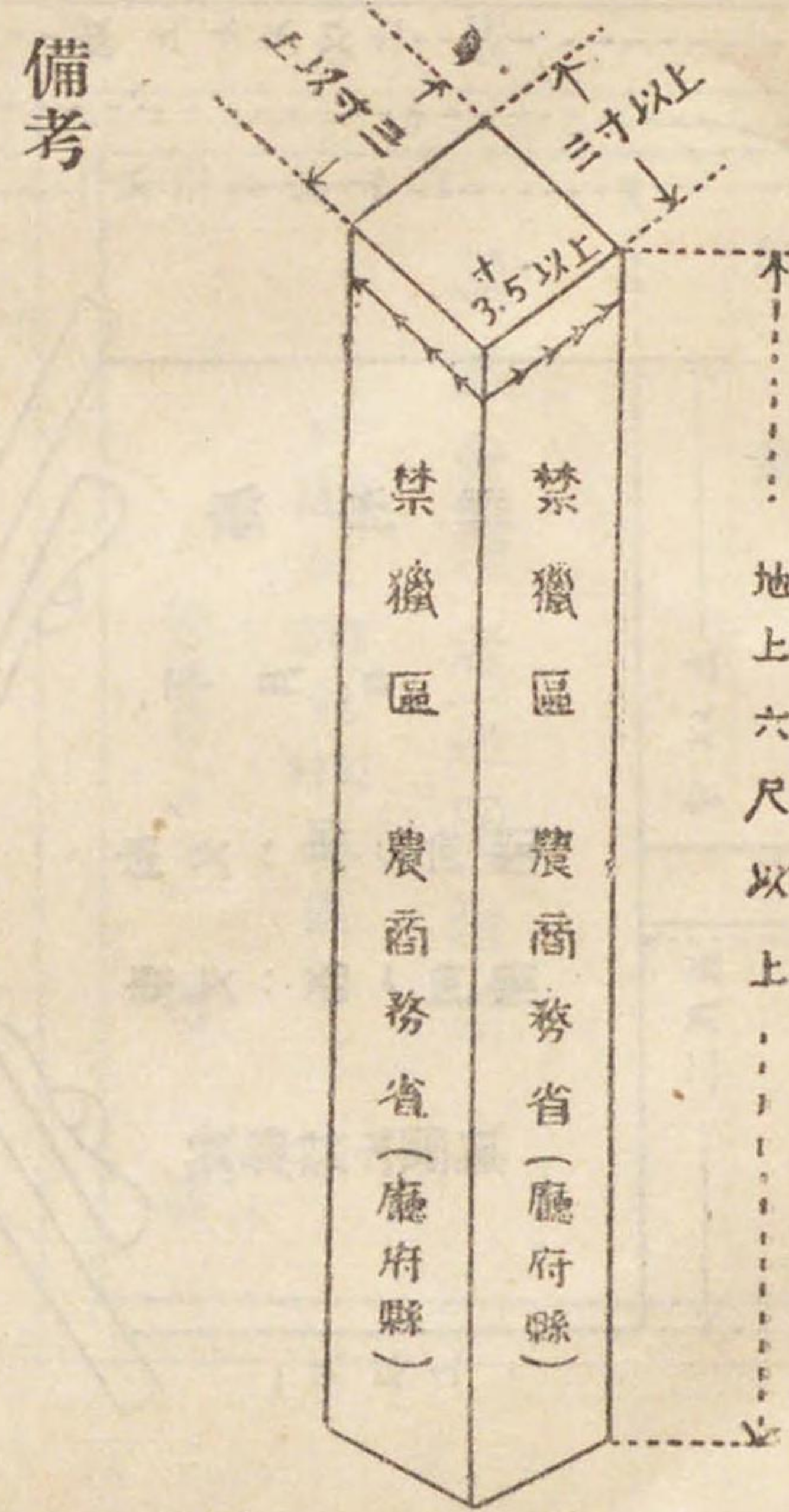


鳥獸捕獲許可證雛形



農商務省(廳府縣)

禁獵區木標錐形



表

員鳥數名及	區五分域	方目的	生年月日	職名	住所

一分

一分五厘

三寸三分

寸六分

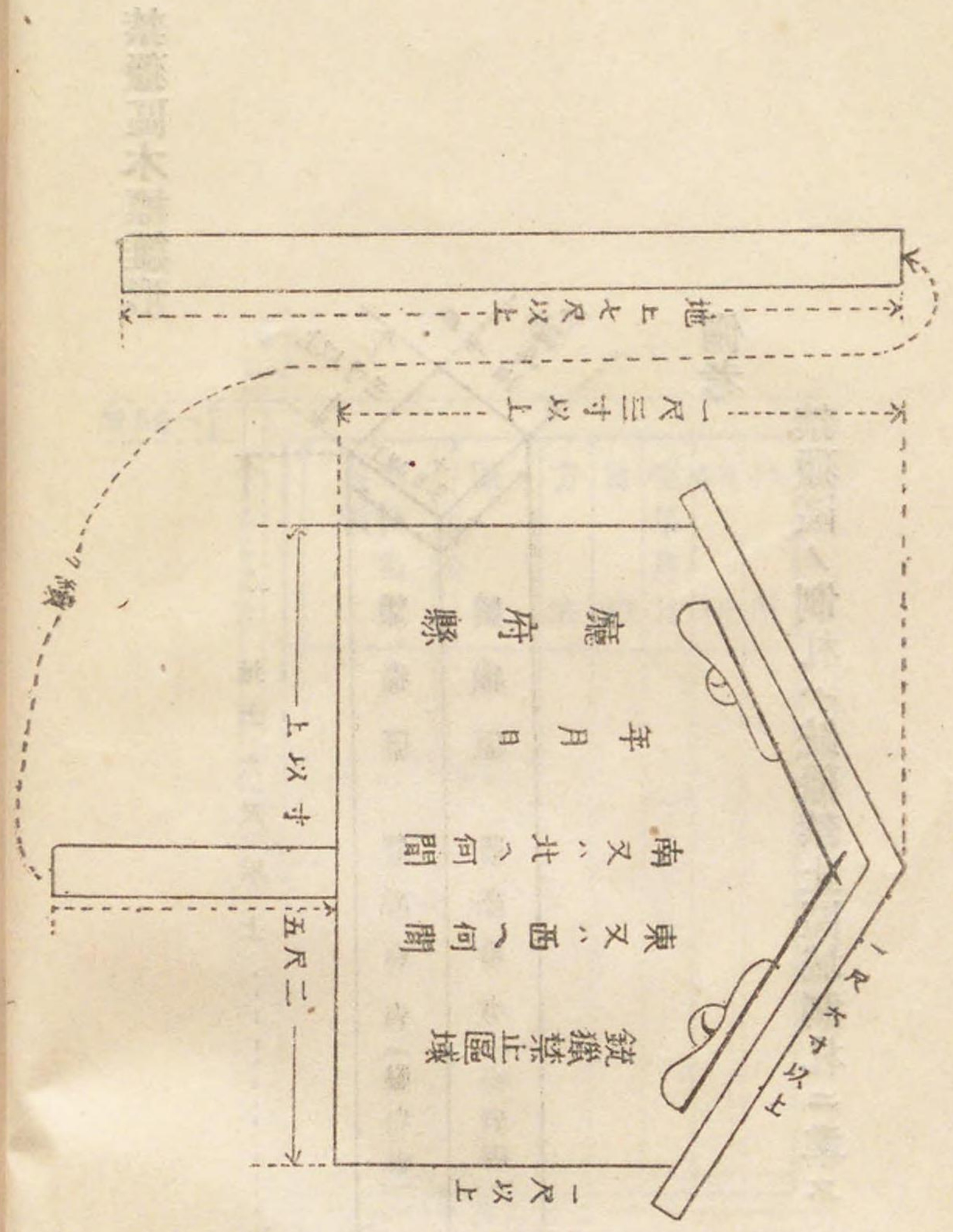
寸四分

寸二分

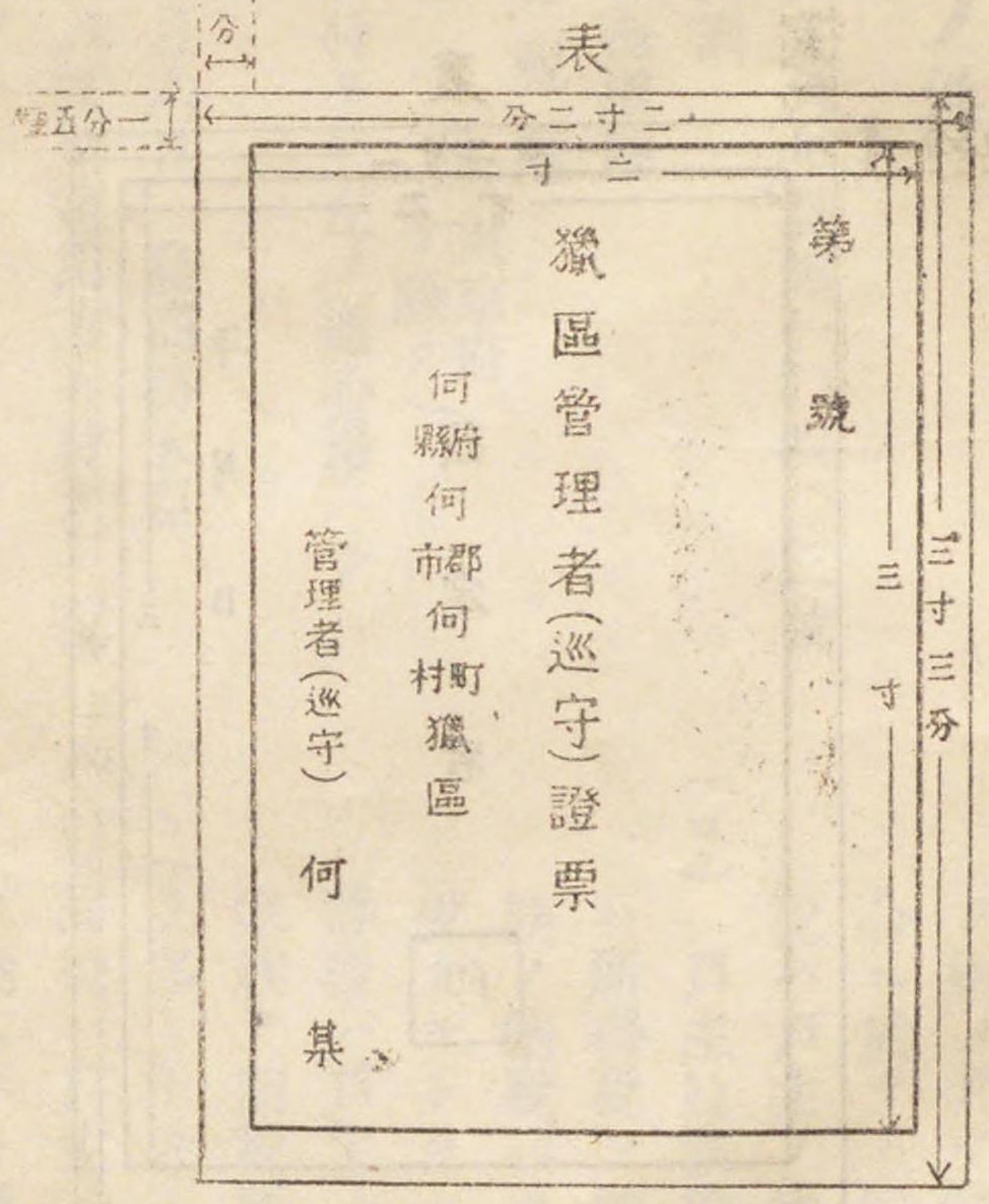
寸二分

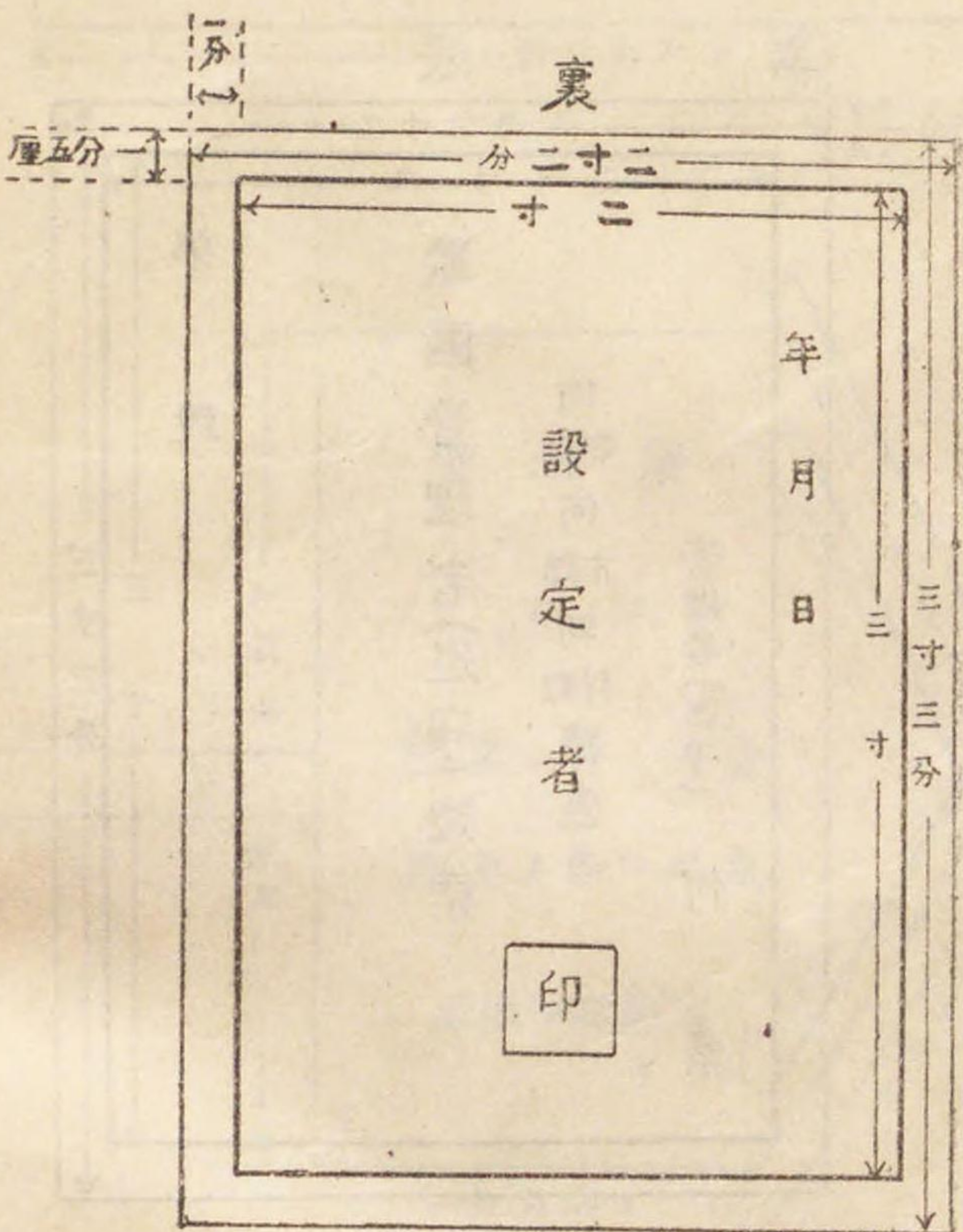
各二分

二水 銃獵禁止區域制札ノ雛形



獵區管理者(巡守)證票雛形





狩獵法施行ニ關スル

内訓ノ件

大正八年農第一〇四〇三號

内訓

北海道廳

警視廳

府 縣 (東京府) (ヲ除ク)

狩獵法施行ニ付テハ左ノ通心得ヘシ

右内訓ス

大正八年九月六日 農商務大臣

一 狩獵法第八條ノ適用方ニ付テハ左

ノ如ク取扱フヘシ

(イ) 戸主カ地租營業稅又ハ所得稅

ヲ納メ其ノ家族之ヲ納メサル場

合ニ於テハ家族ノ納ムヘキ免許

稅ハ戸主ノ納稅額ニ依ル

(ロ) 戸主竝家族カ地租、營業稅又

ハ所得稅ヲ納ムル場合ニシテ家

族ノ納稅額カ戸主ノ納稅額ヨリ

少ナキトキハ家族ノ納ムヘキ免

許稅ハ戸主ノ納稅額ニ依ルヘク

家族ノ納稅額カ戸主ノ納稅額ヨ

リ多キトキハ戸主ノ納ムヘキ免

許稅ハ戸主ノ納稅額ニ依リ家族

ノ納ムヘキ免許稅ハ其ノ納稅額

ニ依ル

二 御獵場、御料林野、御料牧場、國

月十五日迄ニ於ケル報告書ヲ調製シ
毎年五月末日迄ニ之ヲ差出スヘシ

有林野其ノ他國ノ管理スル土地ニ於

四 禁獵區及銃獵禁止區域ヲ設ケタル

テ有害鳥獸ノ驅除ヲ必要ト認ムルト

トキハ遲滯ナク其理由、區域及存續

キハ當該管理官廳ハ所屬公務員ニ狩

期間ヲ報告スヘシ禁獵區及銃獵禁止

獵法施行規則第七條ニ依ル鳥獸捕獲

區域ヲ廢シ又ハ變更シタルトキ亦同

許可證ニ準シタル證票ヲ交付シ其ノ

シ

旨關係地方長官ニ通牒スヘク右證票

五 禁獵區内ニ於ケル前年九月十五日

ハ地方長官ノ下付スヘキ許可證ニ代

ヨリ其ノ年九月十四日迄ノ鳥獸蕃殖

ルモノトス

ノ狀況其ノ他ノ成績ヲ毎年九月末日

三 狩獸免狀又ハ鳥獸捕獲許可證ヲ下

迄ニ報告スヘシ

付シタルトキハ第一號及第二號様式

六 狩獵法施行規則第二十五條ニ依ル

ニ依リ前年四月十六日ヨリ其ノ年四

獵區設定認可願竝獵區ノ區域及位置

ヲ示ス圖面ハ別記第三號及第四號様

式ニ準セシムヘシ

第一號樣式

何年度狩獵免狀、鳥獸捕獲許可證下付報告書 廳 府 縣

備考	免許稅	免狀殘數	免狀再渡數	免狀下付數	免狀受取數	甲種			乙種			
						一等	二等	三等計	一等	二等	三等計	

第二號樣式

何年度鳥獸捕獲報告書 廳 府 縣

備考	許可證下付數	飼養	有害鳥獸驅除	捕獲又ハ採取ノ目的		鳥獸又ハ卵ノ種類		員數

第三號樣式

獵區設定認可願

一	獵區ノ名稱	何府何郡何市何町	何村	獵區
二	事務所ノ位置	何府何市何郡何町	何村	大字子何番地
三	獵區ノ區域	何府何市何郡何町	何村	及何町ノ一部
四	獵區ノ面積	山林	何町何反何畝	何步
		原野	同	
		田	同	
		畑	同	
		池沼	同	
		計	同	
五	獵區存續期間	自何年何月何日至何年何月何日		

六

狩獵法施行規則
第二十二條ノ承認料額

一人一日何圓

七

鳥獸ノ保護蕃殖ニ關スル方法

八

獵區内ニ於ケル鳥獸棲息ノ狀況

前記ノ通獵區設定致度候ニ付テハ御認可相成度狩獵法施行規則第二十五條第二項規定ノ書類相添へ此段相願候也

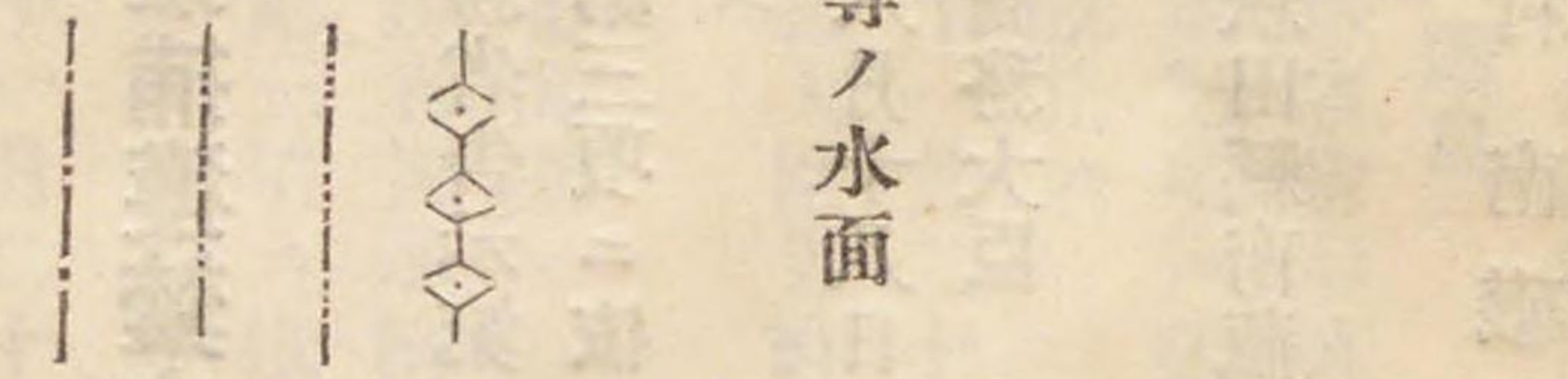
年 月 日

農商務大臣宛

何府何郡何市何町長 何某印

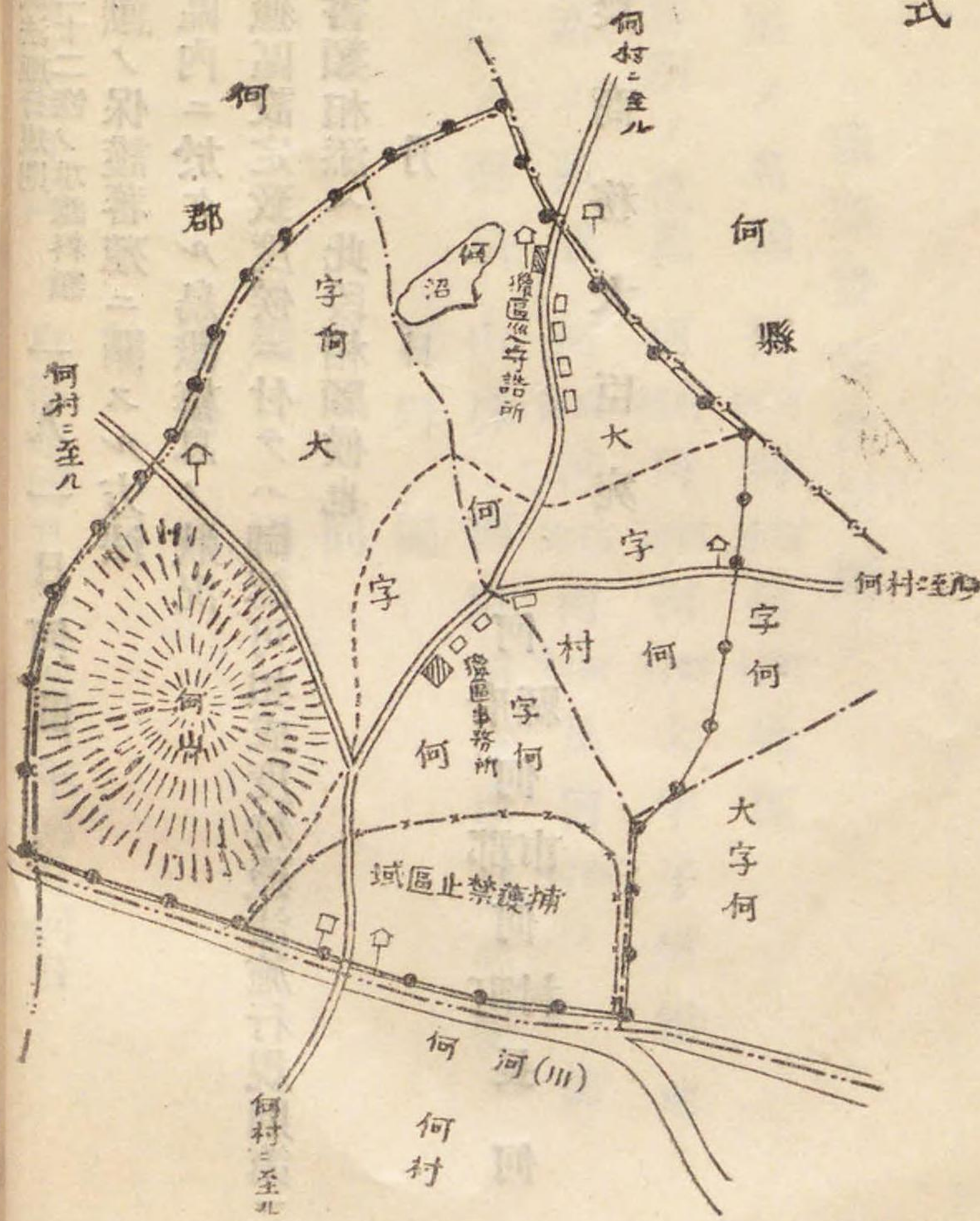
凡例

田畑地 山林野 湖海池沼溜池等ノ水面 河川 道路 府縣 郡市 町村 大字



無色 黃色 薄紅色 綠色 鼠色 藍色 褐色 黑色 同 同 同 同

字界 獵區界 捕獲禁止區域界 家屋 標識 獵區案内圖 備考 圖面ニハ周圍ノ間數及府縣郡市町村名ヲ記入スヘシ



鹿及猿捕獲禁止ノ件

脇本村 潟西村 船越村
拂戸村

一鹿、猿

一禁止區域 香川縣小豆郡ノ内

草壁町 安田村 福田町

大部村 西村 池田村

大鐸村 北浦村

農商務省告示第三百八號

狩獵法第一條第三項ニ依リ左ノ通狩獵

獸ノ捕獲ヲ禁止ス

大正八年十二月二十五日

農商務大臣

一鹿

男鹿中村 南磯村 北浦町
戸賀村 船川港町 五里合村

一禁止區域 秋田縣南瓶田郡ノ内(男
鹿半島)

一鹿

農商務大臣 山本 達雄

大正八年八月十八日

狩獵法第一條第三項ニ依リ左ノ通獸類
ノ捕獲ヲ禁止ス

農商務省告示第二百十九號

一禁止區域 宮城縣牡鹿郡鮎川村ノ内

金華山(離島)

農商務省告示第二百五十七號

狩獵法第一條第三項ニ依リ左ノ通狩獵

獸類ノ捕獲ヲ禁止ス

大正九年十一月二十四日

農商務大臣男爵 山本 達雄

一貂、鹿

一禁止區域 北海道

農商務省告示第二百五十八號

狩獵法第一條第三項ニ依リ左ノ通狩獵

獸ノ捕獲ヲ禁止ス

大正九年十一月二十四日

農商務大臣男爵 山本 達雄

一禁止區域 島根縣簸川郡ノ内

日御碕村 大字

日御碕村

鵜鷺村

鰐淵村

杵築村

杵築村

荒木村

遙堪村

高濱村

鳶巢村

一鹿

杵築村 杵築北

杵築町 杵築東

鵜鷺村 修理免

鰐淵村 菱根、遙堪

杵築村 矢尾、日下

荒木村

遙堪村

高濱村

鳶巢村

國富村
西田村
賀美談
奧宇賀

禁止ノ件

狩獵法第四條ニ依リ法定以外ノ獵具ヲ以テスル狩獵獸類捕獲禁止ノ件左ノ通認可セリ

狩獵法第四條ニ依ル

縣名	禁止スヘキ獵具ノ種類	禁止スヘキ獸ノ種類	認可年月日
德島縣	箱簾、壓シ	獾、鼬、獺、狐、狸、貂	大正九年十一月二十五日
愛媛縣	箱簾	鼬、貂、鼯鼠	同 十二月十七日

御獵場ノ名稱及所在地ノ件

明治三十六年十月十日

農商務省告示第二百十三號
改正 大正十年五月十四日
宮内省告示第十二號
狩獵法第四條第一號ノ御獵場ノ名稱及所在地左ノ如シ

(新法第十一條第一號)

縣名	郡名	村名
千葉縣	印旛郡	阿蘇村
		鎌ヶ谷村
	葛飾郡	八柱村
		大柏村
		八榮村
	千葉郡	幕張村
		大和田村
		睦村
		二宮村
		犢橋村
葛飾郡	八柱村	高木村
		塚田村
	大柏村	八榮村
		法典村
		中山村
	浦安村	南行徳村
		行徳村
		船橋町
		葛飾村
		市川町
土市村	八幡村	八榮村
		川通村
	岩槻町	粕壁町
		川通村
		櫻井村
	新方村	増林村
		大袋村
		荻島村
		高木村
		明村

江戸川筋御獵場 埼玉縣南埼玉郡

和土村 新和村 出羽村 蒲生村

川柳村 八條村 八幡村 大相撲村

越ヶ谷町 大澤町 柏崎村 武里村

豊春村

南櫻井村 吉川村 金杉村 彦成村

早稻田村 三輪野江村 旭村 川邊村

松伏領村 豊野村

同 縣北葛飾郡

同 縣北足立郡 新郷村 谷塚村 草加町 新田村

安行村 戸塚村 膝子村 東宮下村

日光御獵場 栃木縣上都賀郡 日光町 小來川町 西大蘆村 今市町

同 縣河内郡 豊岡村

岩瀬御獵場 福島縣岩瀬郡 鏡石村 關平村 中畑村 三神村 矢吹村

同 縣西白河郡

川崎村 滑津村 上河津村 城東村

天城御獵場

靜岡縣賀茂郡 仁科村 中川村 上大見村

段戸御獵場

愛知縣北設樂郡 段嶺村 田口村 上賀茂村 靜市野村

京都御獵場

京都府愛宕郡 雲ヶ畑村 大宮村 鞍馬村 同縣葛野郡 小野郷村 中川村

皇族遊獵ノ件

明治二十五年十月十五日

内訓丙第三百七十九號

皇族ニ於テ御遊獵相成候節ハ狩獵規則

遵守可相成ハ勿論ニ有之候得共右ハ免
狀御携帶ニ及ハサル義ニ付別段狩獵免
狀交付不相成候御出獵ノ際不都合無之
様取扱フヘシ

外國皇族狩獵ノ義ニ付内訓ノ件

農發第一四五一三號農務局長
通牒

明治三十七年二月二十三日
内訓農第十六號

外國皇族ニ於テ狩獵相成候節ハ明治二十五年十月内訓丙第三七九號ノ通心得ヘシ
右内訓ス

密獵取締ニ關スル件

明治四十三年十月四日

狩獵取締ニ付テハ曩ニ屢依命通牒ノ次第モ有之候處依然密獵ヲ爲ス者尠カラサル哉ノ聞ヘアリ近年野生鳥類著シク減少シ農林業上被害頗ル恐ルヘキモノアリ加フルニ狩獵免許稅ノ減額ニ伴ヒ狩獵者ノ數ヲ増加スヘキヲ以テ此際一層取締ヲ嚴ニスルト同時ニ密獵取締ニ付特ニ御配意相成様致度之カ取締方法ハ種々アルヘキモ左記事項御參考迄ニ申添候條地方ノ狀況ニ應シ適宜有效ナル方法ヲ講シ取締上遺憾ナキヲ期セラ

レ度依命右通牒ス

記

- 一 獵期開始前及雉、鷓雉解禁前ニ於テ特ニ周到ナル注意ヲ爲スコト
- 一 野生鳥類特ニ保護鳥ニ關シテ其ノ習性及效益等ヲ周知セシメ愛護ノ念ヲ惹起シテ之カ保護蕃殖ノ途ヲ講スルコト
- 一 剝製業者、食用野生鳥商、西洋料理其ノ他割烹店等ニ就キ鳥類ノ取引先ニ注意スルコト
- 一 戸口調査ノ際銃器若ハ其ノ他ノ獵具ヲ所持スルヤ否ヲ視察シ其ノ之ヲ

有スル者ニ付其ノ舉動ヲ注意スルコト

一 銃砲火藥類ノ販賣ニ關シ注意スルコト

銃砲火藥類取締法

明治四十三年四月十三日

法律第五十三號

總、陸、海、内、司、大臣副署

改正 大正六年

法律第二號

總、陸、海、内、司、大臣副署

第一條 銃砲ハ左ノ各號ノ一ニ該當ス

ル場合ヲ除クノ外之ヲ製造スルコトヲ得ス

一 行政官廳ノ委託ヲ受ケタル場合

二 行政官廳ノ許可ヲ受ケ輸出ノ目的ヲ以テ軍用銃砲ヲ製造スル場合

三 行政官廳ノ許可ヲ受ケ又ハ營業トシテ非軍用銃砲ヲ製造スル場合

四 行政官廳ノ許可ヲ受ケ新規發明ニ係ル軍用銃砲ヲ一定ノ期間試験ノ爲製造スル場合

第二條 火藥類ハ左ノ各號ノ一ニ該當スル場合ヲ除クノ外之ヲ製造シ又ハ

變形若ハ修理スルコトヲ得ス

一 行政官廳ノ委託ヲ受ケタル場合

二 行政官廳ノ許可ヲ受ケ火藥類ヲ製造シ又ハ變形若ハ修理スル場合

三 行政官廳ノ許可ヲ受ケ又ハ營業トシテ普通火工品ヲ製造シ又ハ變形若ハ修理スル場合

四 行政官廳ノ許可ヲ受ケ新規發明ニ係ル火藥類ヲ一定ノ期間試験ノ爲製造スル場合

五 理化學上ノ實驗ノ爲小量ノ火藥類ヲ製造シ又ハ變形若ハ修理スル場合

前項第一號ノ場合ニ該當スル者ハ命令ノ定ムル所ニ依リ行政官廳ノ許可ヲ受ケ其ノ委託額以上ノ同種類ノ軍用火藥類ヲ製造スルコトヲ得

第二條ノ二 前條第一項第二號又ハ第三號ノ場合ニ於テ火藥、爆藥ヲ製造スルコトヲ得ル者ハ帝國臣民又ハ帝國臣民ノミヲ社員若ハ株主トスル會社ニ限ル

第三條 銃砲、火藥類ノ製造又ハ販賣ノ業ヲ營マントスル者ハ行政官廳ノ許可ヲ受クヘシ但シ製造業者カ其ノ製造シ又ハ加工シタル銃砲、火藥類

ノ卸賣ヲ爲ス場合ハ此ノ限ニ在ラス相續ニ依リ前項ノ營業ヲ繼續スル場合ハ許可ヲ受ケタルモノト看做ス

銃砲ノ修繕又ハ改造ノ業ヲ營ム者ハ銃砲製造業者ト見做シ火藥類ノ變形又ハ修理ノ業ヲ營ム者ハ火藥類製造業者ト見做ス

第四條 行政官廳ハ銃砲販賣業者及火藥類販賣業者ノ道府縣ニ於ケル定員ヲ設クルコトヲ得

製造業者及第二條第二項ノ規定ニ依リ製造ノ許可ヲ受ケタル者ニシテ其ノ製造シ又ハ加工シタル銃砲、火藥

ノ製造シ又ハ加工シタル銃砲、火藥類

類ノ販賣業ヲ兼ヌル者ハ前項ノ定員ニ算入セス

第五條 銃砲、火藥類ノ製造、變形、修理又ハ販賣ニ關シ許可ヲ受ケタル者行政官廳ニ於テ指定シタル期間内ニ其ノ事業ヲ開始セス若ハ事業開始後一年以上其ノ事業ヲ休止シタルトキ又ハ法令ニ違反シタルトキ又ハ安寧秩序ヲ害スルノ虞アリト認ムルトキハ行政官廳ハ其ノ許可ヲ取消シ又ハ其ノ事業ヲ停止若ハ制限スルコトヲ得

第六條 軍用銃砲、火藥類ノ讓渡又ハノ業ヲ營ム者又ハ特ニ行政官廳ノ許可ヲ受ケタル者ニ非サレハ之ヲ爲スコトヲ得ス

第十條 行政官廳ハ何時ニテモ當該官吏ヲシテ銃砲、火藥類ノ製造所、貯藏所其ノ他銃砲、火藥類ヲ收藏スルノ疑アル場所ニ臨檢シ又ハ銃砲、火藥類ヲ收藏スルノ疑アル物件若ハ營業上ノ帳簿其ノ他ノ書類ヲ檢査セシムルコトヲ得
行政官廳ハ危害豫防ノ爲銃砲、火藥類ノ製造所若ハ火藥類ノ貯藏所ノ改築若ハ修繕ヲ命シ又ハ火藥類ニ關シ

讓受ハ法令ニ特別ノ規定アル場合ヲ除クノ外其製造若ハ販賣ノ業ヲ營ム者又ハ特ニ行政官廳ノ許可ヲ受ケタル者ニ非サレハ之ヲ爲スコトヲ得ス
第七條 銃砲、火藥類ハ之ヲ行商シ又ハ市場若ハ露店其ノ他屋外ニ於テ之ヲ販賣スルコトヲ得ス

第八條 銃砲、火藥類ノ輸出ハ其ノ製造若ハ販賣ノ業ヲ營ム者又ハ特ニ行政官廳ノ許可ヲ受ケタル者ニ非サレハ之ヲ爲スコトヲ得ス

第九條 銃砲、火藥類ノ輸入ハ行政官廳ノ委託ヲ受ケタル者若ハ其ノ販賣若ハ其ノ貯藏運搬其ノ他ノ取扱ニ關シ取締上必要ナル處分ヲ爲スコトヲ得

第十一條 行政官廳ハ保安上、軍事上又ハ外交上必要アリト認ムル場合ニ於テ銃砲火藥類ノ輸出若ハ輸入ヲ禁止シ又ハ制限スルコトヲ得

第十二條 行政官廳ハ安寧秩序ヲ保持スル爲必要アリト認ムルトキハ銃砲火藥類ノ授受、運搬、携帯ヲ禁止シ又ハ制限スルコトヲ得

第十三條 前二條ノ場合ニ於テ行政官廳ハ銃砲、火藥類ノ假領置ヲ爲スコ

トヲ得

第十四條 左ノ事項ニ關シ必要ナル規定ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

- 一 本法ノ適用ヲ受クヘキ銃砲、火藥類ノ範圍及第二條第一項第三號ノ規定ニ依リ製造又ハ變形若ハ修理シ得ル普通火藥類ノ範圍
- 二 銃砲、火藥類ノ取引、授受、使用、運搬、貯藏其ノ他ノ取扱
- 三 銃砲、火藥類ノ取扱人及火藥類ノ作業主任者ニ關スル事項
- 四 銃砲、火藥類製造所及火藥類貯藏所ニ關スル事項

五 火藥類ヲ要スル工事又ハ工業ニ關スル事項

第十五條 本法又ハ本法ニ基キテ發スル命令ノ全部又ハ一部ハ命令ノ定ムル所ニ依リ銃砲、火藥類ニ非サル他ノ戎器又ハ爆發性物品ニ關シ之ヲ準用スルコトヲ得

本法ノ一部ヲ適用スルノ必要ナシト認ムル銃砲、火藥類ニ關シテハ命令ヲ以テ特別ノ規定ヲ設クルコトヲ得

第十六條 第一條、第二條、第八條若ハ第九條ノ規定ニ違反シ、許可ヲ受ケスシテ第三條ノ營業ヲ爲シ又ハ第

五條若ハ第十一條ノ規定ニ依ル命令

ニ違反シタル者ハ二年以下ノ懲役若ハ禁錮又ハ千圓以下ノ罰金ニ處ス

第八條若ハ第九條ノ規定ニ違反シ又ハ第十一條ノ規定ニ依ル命令ニ違反シタル場合ニ於テハ未遂罪ヲ罰ス

第十七條 第十二條ノ規定ニ依ル命令

ニ違反シタル者ハ一年以下ノ懲役若ハ禁錮又ハ三百圓以下ノ罰金ニ處ス

第十八條 第十條第二項ノ規定ニヨル

命令ニ違反シ又ハ第十條第一項若ハ第十三條ノ規定ニ依ル當該官吏ノ職務ノ執行ヲ拒ミ若ハ之ヲ妨ケタル者

又ハ其ノ執行ニ際シ當該官吏ノ尋問

ニ對シ答辯ヲ爲サス若ハ虚偽ノ陳述ヲナシタル者ハ五百圓以下ノ罰金ニ處ス

第十九條 第六條又ハ第七條ノ規定ニ違反シタル者ハ三百圓以下ノ罰金又ハ科料ニ處ス

第二十條 營業者又ハ行政官廳ノ許可

ヲ受ケ銃砲、火藥類ニ關スル事業ヲ行フ者未成年者又ハ禁治産者ナルト

キハ本法又ハ本法ニ基キテ發スル命令ニ依リ之ニ適用スヘキ罰則ハ之ヲ法定代理人ニ適用ス但シ營業ニ關シ

成年者ト同一ノ能力ヲ有スル未成年者ニ付テハ此ノ限ニ在ラス
第二十三條 明治三十三年法律第五十

第二十一條 營業者又ハ行政官廳ノ許
命令ニ依ル犯罪ニ之ヲ準用ス

可ヲ受ケ銃砲、火藥類ニ關スル事業
附 則

ヲ行フ者ハ其ノ代理人、戶主、家族
本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

同居者、雇人其ノ他ノ從業者ニシテ
刑法施行法第二十五條第一項中第一號

其ノ營業又ハ事業ニ關シ本法又ハ本
ヲ削リ以下各號順次繰上ク

法ニ基キテ發スル命令ニ違反シタル
爆發物取締罰則ハ本法ノ爲其ノ效力ヲ

トキハ自己ノ指揮ニ出テサルノ故ヲ
妨ケラルルコトナシ

以テ處罰ヲ免ルルコトヲ得ス
（明治四十四年三月十一日勅令第十

第二十二條 前二條ノ場合ニ於テハ罰
五號ヲ以テ同年五月一日ヨリ施行）

金、二科料又ハ沒收以外ノ刑ニ處スル
附 則（大正六年法律第二號）

コトヲ得ス
本令施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

銃砲火藥類取締法中

改正法律施行期日ノ

件

大正六年十二月十七日

勅令第二百三十號

總、內、海、陸、司、遞大臣副署

大正六年法律第二號ハ大正七年二月一日ヨリ之ヲ施行ス

銃砲火藥類取締法

施行規則（摘要）

第一條 銃砲火藥類取締法ニ於テ銃砲
ト稱スルハ軍用銃砲及非軍用銃砲ヲ
謂フ
軍用銃砲トハ陸軍大臣又ハ海軍大臣
ニ於テ軍用銃砲トシテ指定シタル銃
砲及千米突以上ノ距離ニ有效ニ彈著
スヘキ裝置ヲ有シ陸軍又ハ海軍ノ用
ニ供シ得ヘキ銃砲ヲ謂ヒ非軍用銃砲
トハ其ノ他ノ銃砲ヲ謂フ

明治四十四年三月十一日

勅令第十六號、總、陸、海、內、

遞、司、大臣副署

改正 大正六年第八十四號

第二條 銃砲火藥類取締法ニ於テ火藥類ト稱スルハ左ニ掲クル火藥、爆藥及火工品ヲ謂フ

一 火藥 硝酸鹽類ヲ主トスル有煙火藥硝化纖維素ヲ主トスル無煙火藥、又ハ純硝化纖維素トナイトログリセリントノ結合物ヲ主トスル無煙火藥ノ類

二 爆藥 雷酸鹽雷汞ノ類起爆ノ用途ニ供スル窒化物窒化鉛ノ類其ノ他ノ起爆劑、ナイトログセリン及之ヲ主トスル爆發藥各種ダイナマイトノ類硝酸鹽、鹽素酸鹽若ハ過鹽素酸鹽ヲ主トスル爆

發藥又ハ爆發ノ用途ニ供スル棉火藥芳香系列ノ硝化物及之ヲ主トスル混和物ナイトロベンジン、ナイトロナフサリン、ナイトロリユオール、ピクリン酸、ピクリン酸ヲ主トスル混和物ノ類

三 火工品 實包、空包、藥筒、藥包、彈藥筒、火藥若ハ爆藥ヲ裝填シタル彈丸若ハ水雷、雷管、信管、爆管、門管、燧燃導火線一尺ノ燃焼時間十秒以上ヲ要スルモノ速燃導火線又ハ煙火其ノ他火藥類ハ爆管ヲ使用シタル火工品但シ玩具用普通火工品ヲ除ク
雷管又ハ信管ヲ裝置シタル導火線ハ雷管又ハ信管ト見做ス

第二條ノ二 銃砲火藥類取締法第二條

第一項第三號ノ規定ニ依リ製造又ハ變形修理シ得ル普通火藥類ハ左ニ掲クルモノニ限ル

一 火藥 硝酸鹽類ヲ主トスル有煙火藥又ハ硝化纖維素ヲ主トスル無煙火藥

二 爆藥 雷酸鹽雷汞ノ類ナイトロトリユーオール、ナイトログリセリン及之ヲ主トスル爆藥類各種ダイナマイトノ類硝酸アンモニアヲ主トスル爆發藥、爆發ノ用途ニ供スル綿火藥又ハ煙火原料用爆藥

三 火工品全部

第三條 銃砲火藥取締法ニ於テ軍用火藥類ト稱スルハ專ラ陸軍又ハ海軍ノ用ニ供スル火藥類ヲ謂ヒ普通火藥類ト稱スルハ其ノ他ノ用ニ供スル火藥類ヲ謂フ

火藥類ノ作業主任者ノ資格ニ關スル規定ハ内務大臣之ヲ定ム

第十六條 火藥類讓渡ノ許可ハ所轄廳府縣長官ニ之ヲ申請スヘシ
火藥類讓受ノ許可ハ消費地廳府縣長官ニ之ヲ申請スヘシ但シ消費地定マラス若ハ二箇所以上ニ互リ又ハ銃砲

火藥類取締法施行區域外ニ係ル場合

ハ所轄廳府縣長官ニ之ヲ申請スヘシ

第十七條 左ノ各條ノ火藥類ノ讓渡及

讓受ニ付テハ内務大臣ノ定メタル場

合ニ限リ前條ノ區分ニ依リ警察官署

ニ之ヲ申請スルコトヲ得

一 火藥 三貫以内

二 爆藥 一貫以内

三 工業用雷管 二千箇以内

四 信管 千箇以内

五 爆管 千箇以内

六 門管 千箇以内

七 導火線 五百間以内

第十八條 軍用銃砲又ハ左ノ各號ノ火

藥類ノ讓渡ノ許可ハ所轄警察官署ニ

之ヲ申請スヘシ

一 火藥 一貫三百匁以内

二 銃用實包 千箇以内

三 銃用空包 千箇以内

四 銃用實包又ハ銃用空包ニ要スル雷

管又ハ雷管附藥莢 二千箇以内

第十九條 前條ノ許可ハ二月間其ノ效

力ヲ有ス前三條ノ許可ハ許可ヲ爲シ

タル行政官廳取締上必要ト認ムルト

キハ何時ニテモ之ヲ取消スコトヲ得

前三條ノ規定ニ依ル讓受ノ許可ハ讓

受ヲ要スル事由ノ消滅ニ依リ其ノ效

力ヲ失フ

第二十條 軍用銃砲又ハ火藥類ノ讓渡

ハ公賣又ハ競賣法若ハ民事訴訟法ニ

依ル競賣ノ場合ニ於テハ許可ヲ要セ

サルモノトス

第二十一條 鑛業法ニ依リ鑛物ノ試掘

若ハ探掘ヲ爲ス者又ハ内務大臣ノ定

ムル所ニ依リ工事若ハ工業ノ爲火藥

類消費ノ許可ヲ受ケタル者カ其消費

スル火藥類ヲ讓受クル場合ニ於テハ

第十七條各號ノ火藥類ニ限リ、狩獵

免許ヲ受ケタル者カ其消費スル火藥

類ヲ讓受クル場合ニ於テハ第十八條

各號ノ火藥類ニ限リ行政官廳ノ許可

ヲ要セサルモノトス

第二十二條 火藥類ハ左ニ掲クル者カ

其ノ火藥類ヲ所持スル場合ノ外之ヲ

所持スルコトヲ得ス

一 火藥類販賣業者

二 火藥類製造業者ハ委託若ハ許可

ヲ受ケ火藥類ノ製造若ハ變形修理

ヲ爲ス者

三 第十六條及第十七條ノ規定ニ依

リ火藥類ノ讓受ノ許可ヲ受ケタル

者

四 前條ノ規定ニ依リ許可ヲ受ケス
シテ火藥類ヲ讓受ケタル者

五 第二十三條ノ規定ニ依リ火藥類
ノ輸入又ハ輸出ノ許可ヲ受ケタル
者

六 運送業者

七 相續又ハ遺贈ニ因リ火藥類ノ所
有權ヲ取得シタル者

八 法人ノ合併ニ因リ火藥類ノ所有
者ヲ取得シタル者

九 前各號ニ掲クル者ノ家族又ハ從
業者火藥類ヲ所持スル者廢業、許
可ノ取消其ノ他ノ事由ニ因リ前項

各號ニ該當セサルニ至リタルトキ
ハ所轄警察官署ノ認可ヲ受ケ讓渡
其ノ他ノ必要ナル處分ヲ爲スヘシ
前二項ノ規定ハ第十八條各號ノ火
藥類ニ之ヲ適用セス

第二十三條 銃砲火藥類取締法第八條

ノ許可ハ輸出港、同法第九條ノ許可
ハ輸入港ヲ管轄スル廳府縣長官ニ之
ヲ申請スヘシ前項ノ許可ハ軍用銃砲
及軍用火藥類ニ付テハ輸出港又ハ輸
入港ヲ管轄スル廳府縣長官ヲ經由シ
陸軍ノ用ニ供スルモノニ付テハ内務
大臣及陸軍大臣ニ、海軍ノ用ニ供ス

ルモノニ付テハ内務大臣及海軍大臣
ニ之ヲ申請スヘシ

第二十四條 前條ノ許可ハ一年間其ノ
效力ヲ有ス但シ許可ヲ爲シタル行政
官廳取締上必要ト認ムルトキハ何時
ニテモ之ヲ取消スコトヲ得

第二十五條 輸入又ハ讓受ノ許可ヲ受
タル火藥類ハ其ノ許可ヲ爲シタル行
政官廳、第二十一條ノ規定ニ依リ許
可ヲ受ケスシテ讓受ケタル火藥類ハ
所轄警察官署ノ許可ヲ受クルニ非サ
レハ之ヲ他ノ用途ニ充ツルコトヲ得
ス

第三十九條 拳銃、短銃又ハ仕込銃ハ

職務又ハ銃砲ニ關スル營業ノ爲ニス
ル場合ヲ除クノ外所轄警察官署ノ許
可ヲ受クルニ非サレハ之ヲ授受、運
搬又ハ携帯スルコトヲ得ス
前項ノ規定ハ仕込刀劍其ノ他變裝シ
タル戎器ニ之ヲ準用ス

第四十條 拳銃、短銃又ハ仕込銃ハ業

務又ハ修學ノ爲ニスル場合ヲ除クノ
外未成年者之ヲ所持シ又ハ未成年者
ヲシテ之ヲ所持セシムルコトヲ得ス
前項ノ規定ハ仕込刀劍其ノ他ノ戎器
ニ之ヲ準用ス

第四十一條 火藥類ノ運搬、所持其ノ他ノ取扱ハ未成年者之ヲ爲シ又未成年者、白痴者若ハ瘋癲者ヲシテ之ヲ爲サシムルコトヲ得ス但シ第十八條各號ノ火藥類ニ付テハ十五歳以上ノ者ニ限り之ヲ爲シ又ハ之ヲ爲サシムルコトヲ得

第四十五條 第七條 第八條第二項、第十條第一項、第十三條、第十四條 第十五條ノ二第一項、第二十二條、第二十五條、第二十七條、第二十八條、第三十一條、第三十二條、第三十六條、第三十七條第一項、第三十八

條、第四十二條及第四十三條ノ規定ニ違背シタル者、第三十三條ノ規定ニ違反シ又ハ本令ニ依ル許可若ハ指定ノ範圍ヲ超エテ火藥類ヲ貯藏シタル者竝ニ本令ニ基キテ發スル内務大臣ノ命令ノ規定ニ適合セサル火藥類貯藏所ニ火藥類ヲ貯藏シタル者ハ一年以下ノ懲役又ハ二百圓以下ノ罰金ニ處ス

附則

本令ハ明治四十四年五月一日ヨリ之ヲ施行ス但シ第十三條及第十四條ノ規定ハ仍二年間之ヲ適用セス

銃砲火藥類取締法

施行規則(摘要)

明治四十四年三月十一日
内務省令第二號
改正 大正三年第二六號

同六年第一六號

本令施行前火藥商又ハ甲種火藥商ノ許可ヲ受ケタル者ハ甲種火藥類販賣業者輸入及卸賣ノ營業ニ限り許可ヲ受ケタル者又ハ乙種火藥商ノ許可ヲ受ケタル者ハ乙種火藥類販賣業者トシテ各其ノ許可ヲ受ケタルモノト看做ス
本令施行ノ際本令又ハ本令ニ基キテ發スル命令ノ規定ニ適合セサル火藥類貯藏所ハ所在地廳府縣長官ノ指定シタル期間ニ於テ之ヲ改造スヘシ

附則

本令ハ大正六年法律第二號施行ノ日ヨリ之ヲ施行ス

第十條 輸入許可申請書ニハ輸入スヘキ銃砲火藥類ノ種類、數量、輸入ノ目的、買入先、輸入港名及火藥類ニ在テハ其ノ成分輸入數量ニ對スル貯藏方法ヲ具スルコトヲ要ス

輸出許可申請書ニハ輸出スヘキ銃砲

火藥類ノ種類、數量、輸出ノ目的、輸出先、輸出港名、積載スヘキ船名及輸出品調達ノ方法ヲ具スルコトヲ要ス

第十二條 火藥類ノ輸入ヲナシタル者ハ輸入ノ時ヨリ二十四時間内ニ輸入シタル火藥類ノ種類、數量及陸揚シタル年月日ヲ輸入港所轄警察官署ニ届出ツヘシ

第十四條 銃砲火藥類取締法施行規則第十六條第七十九條第八十條ニ依ル許可申請書ニハ讓渡シ又ハ讓受クヘキ銃砲火藥類ノ種類、數量、讓渡又

ハ讓受ノ事由竝火藥類ノ讓受ニ在テハ用途、消費ノ時、場所若ハ消費ノ時又ハ場所定マラザルトキハ其事由ヲ具スルコトヲ要ス但シ讓渡ニ付許可ヲ要スル者ヨリ火藥類ヲ讓受クル場合ニ於テハ讓受ノ許可申請ニ際シ讓渡ノ許可アリタルコトヲ證明スルコトヲ要ス

銃砲火藥類取締法施行規則第十六條及第十七條ノ規定ニ依ル火藥類讓受許可申請書ニ具スヘキ火藥類ノ數量ハ一年ヨリ長カラサル一定ノ期間ニ於ケル需要ノ數量ヲ以テスル事ヲ得

銃砲火藥類取締法施行規則第二十二條第二項ノ規定ニ依ル認可申請書ニハ處分スヘキ火藥類ノ種類、數量、處分ノ方法及事由ヲ具スルコトヲ要ス

及第十七條ノ規定ニ依ル火藥類讓受許可證ハ第二十一條第二項ニ定メタル記入ノ餘白ナキニ至リタルトキハ之ヲ返納シテ新許可證ノ交付ヲ申請スルコトヲ得

第十七條 行政官廳軍用銃砲火藥類ノ讓渡讓受又ハ運搬ノ許可者ハ銃砲火藥類取締法施行規則第二十二條第二項ノ規定ニ依ル火藥類讓渡ノ認可又ハ拳銃、短銃、仕込銃ノ授受、運搬携帶ノ認可ヲ爲ストキハ許可證又ハ認可證ヲ交付スルモノトス
銃砲火藥類取締法施行規則第十六條

本條ノ許可證又ハ認可證ハ甲號乃至乙號様式ニ依ルモノトス
第十八條 前條ノ許可證ハ許可力取消サレ又ハ其ノ效力ヲ失ヒタルトキハ十日以内ニ所轄警察官署ニ之ヲ返納スヘシ
第十九條 軍用銃砲、拳銃、短銃、仕込銃、火藥類各第十七條ノ許可證、

認可證ヲ喪失シ、盜取セラレ又ハ其ノ所在不明トナリタルトキハ本人又ハ其ノ事實ヲ知リタル者ニ於テ其ノ事實ヲ知リタル時ヨリ二十四時間以内ニ銃砲火藥類ノ種類、數量又ハ許可證、認可證ノ種類、之ヲ下付シタル官廳名ヲ最寄警察官ニ届出ツヘシ

第二十條 前條ノ届出ヲ爲シタル場合ニ於テハ許可又ハ認可ヲ爲シタル官廳ニ事由ヲ説明シテ許可證又ハ認可證ノ再下付ヲ申請スルコトヲ得

第二十一條 軍用銃砲、拳銃、短銃、仕込銃、火藥類讓受ノ許可證ハ銃砲

火藥類ヲ讓受クルノ際之ヲ讓渡人ニ其ノ讓渡ノ許可證又ハ認可證ハ銃砲火藥類ヲ讓渡スノ際之ヲ讓受人ニ交付スヘシ

銃砲火藥類取締法施行規則第十六條及第十七條ノ規定ニ依ル火藥類讓受ノ許可證ヲ有スル者ニ火藥類ヲ讓渡ス者ハ火藥類ノ種類、數量及讓渡ノ年月日ヲ許可證ニ記入シ署名捺印スヘシ

第二十二條 銃砲火藥類取締法施行規則第二十一條ノ規定ニヨリ許可ヲ受ケスシテ火藥類ヲ讓受クル者ハ行

政官廳ノ與ヘタル許可ノ文書其ノ他資格ヲ證明スルコトヲ得ヘキ文書ヲ讓渡人ニ提示スヘシ

仕込銃ヲ廢棄シタルトキハ十日以内ニ所轄警察官署ニ之ヲ届出ツヘシ

第二十五條 第七條乃至第九條、第十四條乃至第二十一條、第二十三條、第二十四條及其ノ罰則ノ規定ハ仕込刀劍其ノ他變裝シタル戎器ニ之ヲ準用ス

附 則

第二十三條 銃砲火藥類製造業者又ハ販賣業者ニ非サル者相續、遺贈又ハ法人ノ合併ニ因リテ軍用銃砲、拳銃、短銃、仕込銃又ハ火藥取締法施行規則第十八條各號以外ノ火藥類ノ所有權ヲ取得シタルトキハ取得ノ時ヨリ十日以内ニ所轄警察官署ニ之ヲ届出ツヘシ

本令ハ明治四十四年五月一日ヨリ之ヲ施行ス但シ第五十條ハ二年間其ノ施行ヲ延期ス

附 則(大正六年第百八十四號)

第二十四條 火藥製造業者又ハ販賣業者ニ非サル者軍用銃砲、拳銃、短銃、

本令ハ大正七年二月一日ヨリ之ヲ施行ス

效證	期書	有自(大正)年	月	日
讓渡ノ事	由、目的			
數	種			
類	ケタル者	讓渡(認可)許		
名	住所	氏名		
第	號	軍用銃砲讓渡(受)許可書		
		[大正]年 月 日		
		警察官署名園		
住所	氏名			
讓渡(受)許可者	ケタル者			
種	類			
數	量			
讓渡(受)ノ	由、目的			
期書	有自(大正)年	月	日	
效證	至(大正)年	月	日	

甲號
銃砲火藥類取締法
施行規則第十八條
用紙美濃半切

第	號	火藥類讓渡許可(又ハ認可)證		
		[大正]年 月 日		
		廳府縣(警官署)名園		
住所	氏名			
讓渡(認可)許	ケタル者			
類	種			
量	數			
讓渡ノ事	由、目的			
期書	有自(大正)年	月	日	
效證	至(大正)年	月	日	

乙號
銃砲火藥類取締法施行規則
第二十六條第十七條
施行細則第十七條
用紙美濃半切

效證	朝書	間有	自(大正)	年	月	日
消費ノ日時						
消費ノ場所						
用途						
讓受ノ事						
期						
數						
種						
讓受許可者	氏所					
名	警察官署名園					
氏名	住 所					
種	火 藥類讓受許可證					
數	第 號					
讓受ノ事	丙 號					
用途	施行細則第十七條法					
消費ノ場所	施行細則第十八條法					
消費ノ日時	用紙美濃半切					
效證	朝書	間有	自(大正)	年	月	日

效證	朝書	間有	自(大正)	年	月	日
消費ノ日時						
消費ノ場所						
用途						
讓受ノ事						
期						
數						
種						
讓受許可者	氏所					
名	廳府縣(又ハ警察官署)名園					
氏名	住 所					
種	火 藥類讓受許可證					
數	第 號					
讓受ノ事	丁 號					
用途	十四條取縮法施行規則第十七條					
消費ノ場所	十四條取縮法施行規則第十七條					
消費ノ日時	用紙美濃四ツ折册子					
效證	朝書	間有	自(大正)	年	月	日

丁號
銃砲火藥類取縮法施行規則第十六條第十七條
銃砲取縮法施行規則第十七條
用紙美濃四ツ折册子

讓渡人記入ノ欄				
種類	數量	讓渡年月日	署名捺印	

内 課

發著ノ場所	通	運搬ノ方法	運搬ノ日時	數	種	運搬許可者	住 氏所	警察官署名印	火 藥類運搬許可證	(大正) 年 月 日	第 號

戊號
 銃砲則第三十六條
 火藥類取締法施行規
 則第十七條
 銃砲火藥類取締法施行細
 則第三十九號
 用紙美濃半切

己號 (銃則第三十條、火藥類第九條、火藥類第七條、火藥類第十五條) 用紙美濃半切

第 號	拳銃 (又ハ短銃仕込銃、變仕込刀劍、シタル戎器) 授受 (又ハ運搬) 許可證
〔大正〕年 月 日	
警察官署名	
授受 (又ハ運搬) 許可ケタル者	住 所 氏 名
種 類	
數 量	
授受 (又ハ運搬) 許可事由	

陸軍軍用銃砲及火藥類拂下規則

明治四十四年四月二十九日

陸軍省令第四號

改正 大正元年第一號

第一條 砲兵工廠ハ左ニ掲クル者ニ對シ軍用銃砲ノ拂下ヲ爲スコトヲ得

- 一 官廳、公署、官公立中學校又ハ之ト同等以上ノ官公立學校

二 銃砲販賣業者

- 三 軍用銃砲ノ輸出ニ付内務大臣及陸軍大臣又ハ海軍大臣ノ許可ヲ受ケタル者

四 軍用銃砲ノ讓受ニ付警察官署ノ許可ヲ受ケタル者

前項第四號ニ據リ拂下クル銃砲ノ數量ハ一人ニ付一箇トス但シ在郷軍人會及學校ハ此ノ限ニ在ラス

第二條 砲兵工廠ハ左ニ掲クル者ニ對シ火藥類ノ拂下ヲ爲スコトヲ得

- 一 官廳、公署、官公立中學校又ハ之ト同等以上ノ官公立學校

二 甲種火藥類販賣業者

- 三 軍用火藥類ノ拂下ニ在リテハ其ノ輸出ニ付内務大臣及陸軍大臣又ハ海軍大臣ノ許可ヲ受ケタル者、

其ノ他火藥類ノ拂下ニ在リテハ其ノ輸出ニ付廳府縣長官ノ許可ヲ受ケタル者

シ現役將校同相當官、準士官在郷軍人會又ハ學校カ射撃用ノ爲拂下ヲ受ケタル場合ハ此ノ限ニ在ラス

四 火藥類ノ讓受ニ付廳府縣長官又ハ警察官署ノ許可ヲ受ケタル者

第三條 砲兵工廠ハ前條第一項各號ノ

一ニ該當スル者ヨリ火藥類ノ變形修理ヲ願出タルトキハ之ニ應スルコトヲ得

五 銃砲火藥類取締法施行規則第二十一條ニ依リ火藥類ノ讓受ニ付許可ヲ要セサル者

前項第四號及第五號ノ者ニ拂下クル火藥類ハ火藥ハ十二貫、爆藥ハ三貫、實包ハ三萬箇、空包ハ三萬箇、銃用雷管ハ十萬箇、工業用雷管ハ一萬箇、信管爆管門管ハ各三萬箇以上トス但

類ヲ提出スヘシ

第四條 砲兵工廠ニ軍用銃砲又ハ火藥類ノ拂下ヲ願出ル者ハ願書ニ拂下ヲ受クヘキ品種、數量ヲ記載シ軍用銃砲火藥類ノ讓受若ハ輸出許可證又ハ讓受ニ關シ其ノ資格ヲ證明スヘキ書類ヲ提出スヘシ

第五條 砲兵工廠ニ於テ火藥類讓受許可證ニ依リ火藥類ヲ拂下ケタルトキハ火藥類ノ種類、數量及讓渡ノ年月日ヲ拂下證ニ記入シ主任官署名捺印スヘシ

第七條 砲兵工廠ハ毎月拂下ヲ爲シタル軍用銃砲及火藥類ノ品種、數量、讓受人ノ住所氏名ヲ翌月十日迄ニ陸軍大臣ニ報告スヘシ

第六條 砲兵工廠ニ於テ讓受許可證ノ交付ヲ受ケ軍用銃砲又ハ火藥類ノ拂下ヲ爲シタルトキハ交付ヲ受ケタル許可證ヲ毎月取纏メ許可ヲ與ヘタル廳府縣長官又ハ警察官署ニ之ヲ送付シ讓受許可證ノ交付ヲ受ケヌ又ハ讓受許可證ニ依ラス軍用銃砲又ハ火藥類ノ拂下ヲ爲シタルトキハ其ノ種類

第八條 陸軍兵器本廠ハ陸軍大臣ノ認可ヲ得タル場合ニ限り會計法第二十四條第八號ノ範圍内ニ於テ隨意契約ニ依リ同廠ニ貯藏スル舊式又ハ不用軍用銃砲火藥類ノ拂下ヲ爲スコトヲ

第七條 砲兵工廠ハ毎月拂下ヲ爲シタル軍用銃砲及火藥類ノ品種、數量、讓受人ノ住所氏名ヲ翌月十日迄ニ陸軍大臣ニ報告スヘシ

第八條 陸軍兵器本廠ハ陸軍大臣ノ認可ヲ得タル場合ニ限り會計法第二十四條第八號ノ範圍内ニ於テ隨意契約ニ依リ同廠ニ貯藏スル舊式又ハ不用軍用銃砲火藥類ノ拂下ヲ爲スコトヲ

得 前項ノ拂下ニ付テハ前諸條ノ規定ヲ
準用ス

附則

本令ハ明治四十四年五月一日ヨリ之ヲ
施行ス

明治三十二年陸軍省令第二十三號ハ之
ヲ廢止ス

共同狩獵地 (大正十年五月現在)

位置	面積	免許期	間
大阪府三島郡三宅村	二二六	自十五年	五年間
同 府北河内郡山田村	五三三	自十六年	十年間
同 府三島郡岸部村大字小路	一一三	自十七年	五年間
新潟縣中頸城郡明治村	九七	自十五年	五年間
同 縣西蒲原郡赤塚村	四三	自十六年	五年間
千葉縣香取郡米津村	一二	自十八年	五年間
同 縣印旛郡豐住村(長沼)	三七九	自十九年	十年間
同 縣山武郡大和村(雄蛇湖)	二〇	自十九年	五年間
同 縣東葛飾郡田中村	一五五	自十九年	五年間
同 縣同 郡福田村	五九	自十五年	五年間

同 縣同 郡田中村大字大室
 同 縣同 郡我孫子町
 同 縣同 郡同 町青山
 同 縣同 郡手賀村布瀨(手賀沼)
 同 縣同 郡印旛郡八生村大字大竹
 茨城縣稻敷郡伊崎村
 同 縣鹿島郡輕野村大字溝口
 愛知縣碧海郡富士松村大字東境
 同 縣知多郡東浦村大字藤江
 靜岡縣安倍郡賤機村
 同 縣駿東郡玉穗村
 同 縣同 郡印野村

一五	七四九	一三一	三九	一二二	三八六	六	二九	九二九	五七	一五二	二〇六
至	自	自	自	自	自	自	自	自	自	自	自
十	六	五	九	十	十	十	十	十	十	十	十
一	年	年	年	年	年	年	年	年	年	年	年
二	二	七	七	七	七	七	七	七	七	七	七
月	月	月	月	月	月	月	月	月	月	月	月
五	年	年	年	年	年	年	年	年	年	年	年
年	間	間	間	間	間	間	間	間	間	間	間

同 縣田方郡小室村十足
 岩手縣氣仙郡唐舟村十三番戸
 福井縣遠敷郡國富村
 富山縣婦負郡池多村大字三熊
 愛媛縣南宇和郡西外海村
 福岡縣三井郡三國村
 同 縣同 郡同 村大字三澤
 同 縣同 町同 村大字同

四五二	一四二	一四〇	一四〇	一四〇	一四〇	一四〇	一四〇	一四〇	一四〇	一四〇	一四〇
至	自	自	自	自	自	自	自	自	自	自	自
十	十	十	十	十	十	十	十	十	十	十	十
年	年	年	年	年	年	年	年	年	年	年	年
二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二
月	月	月	月	月	月	月	月	月	月	月	月
五	年	年	年	年	年	年	年	年	年	年	年
年	間	間	間	間	間	間	間	間	間	間	間

獵區

(大正十年五月現在)

名	稱	事務所ノ位置	面積	期間	承認料	備考
福岡縣宗像郡大島村獵區		同郡同村一〇一一番地	三、三三町	自大元、六、三〇	二、〇〇〇	兔、雉
靜岡縣駿東郡順走村外四ヶ町村組合岳東獵區		同縣同郡高根村塚原甲一番地	六、反、三、七步	自大元、八、七	二、〇〇〇	雉、鳩、鴨
福島縣安積郡丸守村獵區		同縣同郡同村大字安子島字一五二町	六、反、三、七步	自大元、八、六	二、〇〇〇	兔、雉
長野縣小縣郡武石村武石獵區		同縣同郡同村役場内	六、九町	自大元、四、一、七	一、〇〇〇	雉、鶴、雉、兔
千葉縣夷隅郡老川村筒森獵區		同縣同郡同村久留里町久留里	二、反、九、畝	自大元、四、三、三	一、〇〇〇	雉、鶴、雉、兔
群馬縣碓氷郡坂本町碓氷獵區		同縣高崎市高崎小林區署内	九、反、三、畝	自大元、三、三、〇	二、〇〇〇	猪、鹿、鶴、雉
福島縣相馬郡石神村六ツカメキ獵區		同縣同郡原町原町小林區署内	三、〇〇町	自大元、三、三、〇	一、五〇〇	兔
			九、反、三、畝	自大元、三、三、〇	一、五〇〇	鶴、雉、雉、鳩、兔、貂、鼯、鼠

禁獵區

(農商務省設置)
大正十年五月現在

位置	期間	理	山
△秋田縣鹿角郡及青森縣上北郡ノ兩郡ニ跨ル和田湖水面及其ノ沿岸ヨリ二十町並燒山橋ヨリ子ノ口ニ至ル奥入瀬川筋及兩岸ヨリ各十町	自大元、九、八、六	鳥獸	保護
△兵庫縣明石市大明石村明石御料地	自大元、九、九、一	鳥獸	保護
△岐阜縣惠那郡岩村町及本郷村	自大元、九、九、二	鳥獸	保護
△同縣岐阜市稻葉郡北長森村	自大元、九、九、三	鳥獸	保護
△京都府紀伊郡桃山御陵全部及同郡堀内村、深草村	自大元、九、九、四	鳥獸	保護
△岡山縣吉備郡岡田村鶴越十番地官有溜池全部	自大元、九、九、五	鳥獸	保護
△岡山縣御津郡加茂村、圓城村、宇甘西村、上建部村	自大元、九、九、六	鳥獸	保護
△青森縣東津輕郡東平田村、中平田村、西平田村、野田村及上北郡野邊地町ニ通スル國道以北海海岸朔望滿潮線ヨリ六百間以内ノ海面	自大元、〇、〇、七	鳥獸	保護

禁 獵 區

(各府縣設置
大正十年五月現在)

位 置	面 積	期 間	理 由
北海道千島列島中東經百九十九度、北緯四十五度ヨリ東經百五十五度北緯五十度ニ至ル線内ノ諸島 根室國色丹郡色丹村	同	自大正 至同 年 一五、 一五六、 三五、 六七	鳥獸保護 狐ノ保護及森林保 護 森林チ原生狀態ニ 保存スル爲
石狩國空知郡南富良野村	同	同	同
渡島國檜山郡厚澤部村字鴉	同	同	同
同 國同 郡同 村字館	同	同	同
同 國同 郡江差町	同	同	同
同 日高國樣似郡樣似村	同	同	同
同 釧路國川上郡弟子屈村	同	同	同
同 國阿寒郡飽別阿寒湖	同	同	同

同 膽振國有珠郡壯瞥 蛇田郡蛇田村洞爺湖	八 八 二町	同	同 森林チ原生狀態ニ 保護スル爲
同 根臺國根室郡和田村	同	同	同 鳥獸保護
同 石狩國札幌郡江別 廣島村	同	同	同 鳥獸保護及舊御獵 場跡記念
同 東京府南豐多摩郡多摩村 (舊連光寺村御獵場跡)	同	同	同 危險豫防ノ爲
同 府北豐島郡石神井村大字上石神井 (三寶寺池)	同	同	同 鴨、雁、雉、鶴、雉、保 護蕃殖ノ爲
京都府南桑田郡馬路村	同	同	同 鳥獸ノ保護蕃殖及 風致保存
神奈川縣足柄下郡宮城野村、元函根村、湯本 村、函根村、土肥村	二 三 八 七	同	同 神社ノ神聖保持及 風致保存
同 縣鎌倉郡川口村江ノ島	同	同	同
同 縣中郡大山町	同	同	同
同 郡津久井郡牧野村	同	同	同 鳥類保護蕃殖
同 縣 同郡鳥居村	同	同	同

兵庫縣加東郡來住村(溜池)

同 縣印南郡伊保村ノ内梅井村

同 縣央栗郡三河村ノ内船越村

同 縣加東郡大部村字大池

同 縣揖保郡林田村

同 縣加西郡下里村雨月

長崎縣北松浦郡前方村

新潟縣東蒲原郡下條村

同 縣中魚沼郡蘆ヶ崎村

同 縣北蒲原郡水原町

千葉縣君津郡富津町

同 縣印旛郡遠山村三里塚
(下總御料牧場)

同 縣千葉郡蘇我町生實郷

栃木縣那賀郡高林村

同 縣芳賀郡南高根澤村

同 縣那須郡高林村

同 縣足利郡小俣村

同 縣那須郡那須村

同 縣同 郡西那須野村

同 府同 郡黒磯町

奈良縣北葛城郡河合村

三重縣度會郡沼木村

同 縣同 郡七保村

同 縣同 郡中川村

同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同
二〇	三一	五一	五	八	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二
〇	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一
鳥獸保護	水禽ノ保護	鳥獸保護	水禽ノ保護	水禽ノ保護	鳥類ノ保護繁殖	鹿ノ保護	土地所有者出願	水源地保護ノ爲	水禽及用水源保護	要塞地帶取締ノ爲	危險豫防								

同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同
三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三
〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇
肥料採取ノ爲鳥類	保護	野火ノ發生防止並	鳥獸保護繁殖	土地所有者ノ出願	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同

同縣 同郡小川郷村
 同縣飯南郡花岡村
 同縣多氣郡三瀨谷村
 愛知縣知多郡小鈴谷村
 同縣同郡旭村
 同縣幡豆郡佐久島村
 同縣東加茂郡賀茂村
 山梨縣南巨摩郡身延村
 滋賀縣坂田郡大原村(三島池)
 岐阜縣養老郡一ノ瀬村
 同縣武儀郡洞戸村
 同縣山形郡上伊目良林

一五三 四 一六八 一八七 四
 同 同 同 同 同 同 同 同 同 同
 一一九 一一九 一一五 一一五 一一二 一一二 一一五 一一五 一一〇 一一〇 一一三 一一三 一一三 一一三 一一九 一一九
 〇〇 〇七 〇七 〇二 〇二 〇一 〇二 〇四 〇四 〇七 〇八 〇五 〇五 〇八 〇八 〇二 〇二
 一 一 一 一 一 一 一 一 一 二 一 一 一 一 一 一
 〇 〇 〇 〇 〇 〇 〇 〇 〇 〇 〇 〇 〇 〇 〇 〇
 寺院ノ尊嚴保持 鳥類保護 鳥類保護 土地所有者ノ出願 土地所有者ノ出願 鳥獸保護蕃殖 山林保護及野生鳥獸保護蕃殖 土地所有者ノ出願 寺院尊嚴保持鳥類蕃殖 土地所有者ノ出願 鳥類保護 鳥類保護 同 土地所有者ノ出願 神宮御造營官地ノ保護 鷓ノ糞採取 土地所有者ノ出願

同縣加茂郡白川村
 長野縣諏訪湖
 同縣北佐久郡東長倉村
 宮城縣登米郡登米町(布目沼長橋沼)
 同縣同郡豐國村
 同縣桃生郡大川村
 同縣牡鹿郡鮎川村
 同縣栗原郡長岡村(化女沼)
 同縣本吉郡柳津村
 同縣桃生郡廣淵村
 同縣登米郡北方村古宿沼羽河沼
 同縣同郡淺水村

一一五 二八 七三六 六八 三三六 八四九 一一二五三 一三三九 一〇五 二八 一一五
 同 同 同 同 同 同 同 同 同 同 同 同 同 同 同 同
 大明 大大
 一一七 一一〇 一一四 一一四 一一四 一一四 一一四 一一四 一一四 一一四 一一一 一一一 一一二 一一二 一一六 一一六 一一〇 一一〇
 〇〇 〇四 〇四 〇四 〇四 〇四 〇四 〇四 〇四 〇四 〇二 〇八 〇一 〇一 〇一 〇一 〇一 〇一
 一三 一八 一八 一八 一八 一八 一八 一八 一八 一八 一四 一四 一四 一四 一四 一四 一四 一四
 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一
 〇 五 〇 〇 〇 〇 〇 〇 〇 〇 四 五 〇
 土地所有者ノ出願 貯水ノ保護 同 貯水保護 森林保護 同 同 貯水ノ保護 風景保存並水禽保護 風致維持並危險豫防 貯水ノ保護

同 縣同 郡吉田村
 同 縣伊具郡北郷村
 福島縣河沼郡目橋村
 岩手縣岩手郡米田村
 同 縣同 郡雫石村(小岩井農場)
 同 縣同 郡松尾村
 同 縣同 郡田頭村
 同 縣同 郡淺岸村
 同 縣氣仙郡矢作村
 同 縣二戸郡爾薩體村
 山形縣西田川郡大山町(城山)
 同 縣西置賜郡蠶桑村

一〇六	一七	二七	六	一四五〇	三四〇六	一八〇九	一九五〇	一〇五一	五六	二八	三〇
同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同
一三三	一三三	一五六	一三三	一〇元	一四五	一四五	一三四	一三三	一三三	一三三	〇元
三三	三三	二一	二一	二一	二一	二一	二一	二一	二一	二一	二一
一〇	一〇	一〇	一〇	一〇	一〇	一〇	一〇	一〇	一〇	一〇	一〇
貯水ノ保護	同	造林保護	土地所有者ノ出願	危險豫防	鳥獸保護	造林地保護	造林地保護	造林地保護	造林地保護	水禽保護	寺院尊嚴保持

秋田縣仙北郡田澤湖
 同 縣雄勝郡元西馬音内村
 福井縣足羽郡社村
 同 縣同 郡同村
 同 縣福井市館町
 同 縣三方郡八村
 同 縣敦賀郡東郷村
 同 縣坂井郡加戸村
 石川縣江沼縣聖崎村(大池)
 同 縣河北郡河北湯
 同 縣羽咋郡邑知湯

二〇	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同
同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同
一八八	一七八	一九九	一四四	一〇四	同	同	同	同	同	同	同
一一	一一	一一	一一	一一	一一	一一	一一	一一	一一	一一	一一
一〇	九	一〇	一〇	一〇	一〇	一〇	一〇	一〇	一〇	一〇	一〇
水禽ノ保護蕃殖	鳥獸保護蕃殖	水禽保護	同	同	同	同	同	同	同	同	同

同 縣鹿島郡邑知湯

同 縣能美郡木場湯

富山縣上新川郡大久保町

鳥取縣氣高郡湖山池

島根縣能義縣能義村

同 縣鹿足郡畑追村

岡山縣鹿島郡甲浦村

同 縣後月郡芳井村

同 縣同 郡高屋村

同 縣和氣郡福河村日吉町

同 縣久米郡倭文東村

廣島縣佐伯郡嚴島村

山口縣大島郡家室西方村

同 縣阿武郡萩町

同 縣同 郡篠生村、生雲村、川上村

和歌山縣東牟婁郡那智村、玉置口村

香川縣仲多度郡琴平町

高知縣幡多郡宿毛町

同 縣高岡郡新居村

同 縣長岡郡三里村

同 縣幡多郡奧內村葵浦島

同 縣長岡郡高須村

九〇

同

同

鳥類保護蕃殖

水禽保護

鴨保護蕃殖

土地所有者ノ出願

風致保存及危險豫防

寺院尊嚴保持

山林保護及危險豫防

獸類保護

土地所有者出願

鹿ノ保護

鳥類保護

同

水禽(特ニ鷺鷥)ノ保護蕃殖

鳥獸保護蕃殖及風致保存

鳥獸保護蕃殖及危險豫防

鳥類保護

鳥類保護及肥料採取

土地所有者ノ出願

鳥類保護

土地所有者ノ出願

九一

一〇六

一〇九

同

二〇〇

三〇〇

八七

同

同

同

同

同

四

同

同

六

同

同

五

同

同

一

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

大明

大明

大明

大明

大明

大明

大明

大明

大明

大明

大明

大明

大明

大明

大明

大明

大明

大明

大明

大明

大明

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

一四〇

一四〇

一四〇

一四〇

一四〇

一四〇

一四〇

一四〇

一四〇

一四〇

一四〇

一四〇

一四〇

一四〇

一四〇

一四〇

一四〇

一四〇

一四〇

一四〇

一四〇

一〇〇

一〇〇

一〇〇

一〇〇

一〇〇

一〇〇

一〇〇

一〇〇

一〇〇

一〇〇

一〇〇

一〇〇

一〇〇

一〇〇

一〇〇

一〇〇

一〇〇

一〇〇

一〇〇

一〇〇

一〇〇

四

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同 縣吾川郡諸木村
 同 縣土佐郡潮江村
 同 縣長岡郡田井村
 宮崎縣宮崎郡宮崎市
 同 縣同 郡廣瀬村
 同 縣同 郡住吉村大字島ノ内
 同 縣同 郡同 村大字新名爪
 同 縣同 郡木花村
 同 縣兒湯郡新田村
 同 縣東臼杵郡南方村
 同 縣南那珂郡市木村(幸島)

二一六	一〇五	同	同	同	同	同	同	一〇六〇	二六	同
同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同
一六六	同	同	同	同	同	同	同	一元	一元	一元
九〇	同	同	同	同	同	同	同	〇〇	〇〇	〇〇
一〇	同	同	同	同	同	同	同	一〇	一〇	七
同	同	同	同	同	同	同	同	鳥類保護及名勝地保存	鳥類ノ蕃殖保護	同

同 縣宮崎同郡佐土原町
 鹿兒島縣熊毛郡北種子村(馬毛島)
 同 縣出水郡阿久根村
 同 縣熊毛郡上屋久村

同	同	同	同
同	同	同	同
一元	一元	一元	一元
三三	四	二二	八八
一一	一〇	一〇	五
水禽保護(鴨)	牧畜保護	鶴ノ保護	危險豫防並鳥獸保護

同縣西茨城郡大平町大字平町

三重縣宇治山田市大字今在家町字丸山外十字

靜岡縣田方郡熱海町

滋賀縣琵琶湖水面全部(但シ民有水面ヲ除ク)

同縣蒲生郡島村大字沖ノ島

同縣東淺井郡竹生村大字竹生島

同縣犬上郡地先多景島

同縣高島郡地先白石

岐阜縣養老郡池邊村下池及其ノ周圍

長野縣諏訪郡諏訪湖

宮城縣松島公園ノ内宮城郡七ヶ濱村大字松ヶ濱、花洲濱、菖蒲田濱、吉田濱、東宮濱、同郡多賀城村大字笠神、同郡鹽釜町全部同

大 九、一〇、一四 同

同 二、九、九 同

明 三四、一〇、一九 同及造林保護

同 三三、三、六 水禽蕃殖保護

同 同

同 同

同 同

同 三四、一〇、一六 同

大 一七 同

明 四三、七、二九 危險豫防

郡松島村大字松島、磯崎、高城ノ一部、手樽ノ一部、同郡利府村赤沼、同郡浦戸村全部、同郡野蒜村大字大塚、野蒜、同郡宮戸村全部、同郡小野村大字下堤、同縣松島公園ニ海上追加、同縣七ヶ濱村字御殿崎尖端ヨリ桃生郡宮戸村字波島最高點ニ至ル直線竝ニ同島高點ヨリ桃生郡野蒜村鳴瀨川口右岸ニ至ル直線ノ西北方一帯ノ海上

福島縣耶麻郡翁島村

同縣河沼郡日橋村

青森縣東津輕郡中平内村字平沼ヨリ安居崎ニ至ル沿岸及同海面四百間以内

同縣上北郡六ヶ所村

同縣同郡横濱村

山形縣東田川郡黒川村黒川橋ヨリ同郡横山村横山橋ニ至ル赤川筋兩岸堤内方各百間宛

同縣北村上郡楯岡町

大 一〇、三、三一 同

同及御料林保護

明 四四

大 八 鳥獸保護

明 三六、一、二六

明 三六、三、一八 同

同 三九、一、一九

大 三、一〇、二四 水禽保護蕃殖

同 五、二、一二 同

樺太

樺太狩獵取締規則

明治四十二年九月二十二日

樺太廳令第二十八號

改正 大正三年第十二號

改正 大正七年第三十六號

第一條 爆發物、劇樂、毒藥、据銃又ハ陷穽其ノ他危險ナル装置ヲ以テ鳥獸ヲ捕獲スルコトヲ得ス

第二條 保護鳥獸ハ之ヲ捕獲スルコトヲ禁ス

前項保護鳥獸ノ種類及保護期間ハ別ニ之ヲ告示ス

第三條 狩獵ヲ爲サムトスル者ハ第一

號書式ノ願書ヲ所轄警察官署ニ差出

シ免狀ヲ受クヘシ

第四條 免狀手數料ハ金五十錢、書換、

再下附手數料ハ金二十錢トス但シ本

島在住ノ土人ニハ之ヲ免除ス

前項ノ手數料ハ收入印紙ヲ願書ニ貼用シテ之ヲ納ムヘシ

第五條 免狀ノ有効期間ハ九月一日ヨ

リ翌年八月三十日迄トス

第六條 未成年者及白痴、瘋癲者ハ銃

獵ヲ爲スコトヲ得ス

第七條 左ノ場所ニ於テハ狩獵ヲ爲ス

コトヲ得ス

一 公道

二 公園

三 社寺境内

四 墓地

五 禁獵ノ制札アル場所

狩獵區域ヲ指定シタルトキハ其ノ區

域外ニ於テ狩獵ヲ爲スコトヲ得ス

第八條 日出前日没後又ハ市街其ノ他

人家ノ附近衆人群集ノ場所ニ於テ銃

獵ヲ爲スコトヲ得ス

第九條 出獵ノ際ハ免狀ヲ携帯スヘシ

當該官吏ニ於テ免狀ノ検査ヲ爲スト

キハ之ヲ拒ムコトヲ得ス

第十條 免狀ノ使用ハ本人ニ限ルモノ

トス

第十一條 免狀ヲ受ケタル者ハ左ノ場

合二十日以内ニ届出ツヘシ

一 轉居シタルトキ

二 免狀ヲ亡失又ハ毀損シタルトキ

轉居ノ場合ニ書換亡失ノ場合ニ於テ

ハ再下附ヲ乞フコトヲ得

第十二條 免狀ハ效力ヲ失ヒタルトキ

ヨリ三十日以内ニ所轄警察官署ニ返

納スヘシ

第十三條 免狀ハ第二號書式ニ據ル

第十四條 學術研究其ノ他特別ノ理由

アルモノハ何時ニテモ樺太長官ノ許

可ヲ得テ保護鳥獸其ノ他ノ鳥獸ヲ捕

獲スルコトヲ得

及届出ハ口頭ヲ以テ之ヲ爲ス事ヲ得

附則

本則ハ明治四十二年十月十五日ヨリ之

ヲ施行ス

明治四十一年三月廳令第三號ノ貂ノ獵

期ニ關スル件ハ本則施行ノ日ヨリ之ヲ

廢止ス

保護鳥獸ノ種類及

保護期間ノ件

明治四十二年九月二十二日

廳告示第五十九號

樺太狩獵取締規則第二條保護鳥獸ノ種

第十五條 第一號乃至第三號ニ違背シ

タル者ハ五十圓以下ノ罰金又ハ三十

日以内ノ拘留ニ處ス

第七條乃至第十條ニ違背シタル者ハ

二十圓以下ノ科料ニ處ス

第十六條 免狀ヲ受ケタル者前條ニヨ

リ處罰ヲ受ケタルトキハ免狀ヲ無効

トスルコトアルヘシ

第十七條 本島在住ノ土人ニ限其出願

樽
糶

朝鮮狩獵規則

明治四十四年四月十二日

朝鮮總督府令第四十六號

改正 大正元年第一九號

改正 大正四年九月第九九號

第一條 野生鳥類ハ左ニ掲クルモノヲ

除クノ外銃器、張網又ハ鷹ヲ以テ之

ヲ捕獲スルコトヲ得ス
ガ雁カ鳧キ雉ウ鶉シ鶉シ鶉シ
ハ鳩ヒ鶉ヨ鶉ド鶉リ鶉モ鶉ス
ア鳩ト鶉リ鶉ホ鶉ホ鶉シ鶉ロ
カ鶉サ鶉ギ鶉カ鶉シ鶉ド鶉リ鶉ス鶉メ
ア鶉ト鶉リ鶉ホ鶉ホ鶉シ鶉ロ
カ鶉サ鶉ギ鶉カ鶉シ鶉ド鶉リ鶉ス鶉メ
ア鶉ト鶉リ鶉ホ鶉ホ鶉シ鶉ロ
カ鶉サ鶉ギ鶉カ鶉シ鶉ド鶉リ鶉ス鶉メ

鶴ツルハ之ヲ捕獲スルコトヲ得ス

野生鳥類ノ巢、卵又ハ雛ハ之ヲ採取

スルコトヲ得ス

前三項ノ規定ニ違反シテ捕獲シタル

鳥類又ハ採取シタル巢、卵若ハ雛ハ

之ヲ賣買スルコトヲ得ス

第二條 地方長官ハ鳥類ノ蕃殖保護ノ

爲必要アリト認ムルトキハ區域ヲ定

メ鳥類ノ捕獲ヲ禁止スルコトヲ得

公園社寺陵園廟又ハ祠ノ境内ニ於テ

ハ鳥類ヲ捕獲スルコトヲ得ス

第二條 爆發物、劇藥、毒藥、据銃、陷

穽又ハ危險ナル器ヲ以テ鳥類ヲ捕獲

スルコトヲ得ス

第四條 日出前、日没後又ハ市街其ノ
他人家稠密ノ場所、衆人群集ノ場所
ニ於テ又ハ銃丸ノ達スヘキ虞アル建
物、船舶、汽車ニ向テ銃獵ヲ爲スコ
トヲ得ス

第五條 欄、柵、圍障若ハ作物植付
ル他人ノ占有地ニ於テハ占有者ノ承
諾ヲ得ルニ非サレハ鳥類ヲ捕獲スル
コトヲ得ス

第六條 學術研究又ハ有害鳥類驅除ノ
爲其ノ他特別ノ事由ニ依リ野生鳥類
ヲ捕獲シ又ハ野生鳥類ノ巢、卵若ハ

免狀ハ之ヲ貸與シ又ハ借受クルコト
ヲ得ス

第八條 免狀ノ種類及其ノ有効期間ハ
左ノ如シ

甲種免狀自十月一日至翌年四月三十日張網又ハ鷹ヲ
以テ鳥類ヲ捕獲スルモノニ下付ス
乙種免狀自十月一日至翌年四月三十日銃器ヲ以テ鳥
類ヲ捕獲スル者ニ下付ス

咸鏡北道、咸鏡南道、平安北道及平
安南道ニ於テハ甲種及乙種免狀ノ有
效期間ハ九月十五日ヨリ翌年四月三
十日迄トス

第八條ノ二 警務部長ハ藥用材料採取

雖ヲ採取スルノ必要アルトキハ警務
部長京城ニ在リテハ警務總長以下同シハ第一條乃至第四

條及第七條ノ規定並第八條ノ期間ニ
拘ラス特ニ之ヲ許可シ又ハ地域ヲ定
メ第一條乃至第四條及第八條ノ制限
又ハ禁止ヲ解除スルコトヲ得、但シ
第一條又ハ第二條ノ制限禁止解除ス
ル場合ニハ豫メ地方長官ノ承認ヲ受
クヘシ

第七條 張網若ハ鷹ヲ以テ鳥類ヲ捕獲
シ又ハ銃器ヲ以テ鳥類ヲ捕獲セムト
スル者ハ警務部長ニ願出テ免狀ヲ受
クヘシ

ノ爲銃器ヲ以テ鹿、熊其ノ他一定ノ
野生獸類ヲ捕獲セムトスル者ニ對シ
前條ノ期間ニ拘ラス特ニ免許ヲ與フ
ルコトヲ得

前項免狀ノ有効期間ハ一年トシ其ノ
免狀ヲ受クル者ハ免許手数料金五十
圓ヲ納付スヘシ

第九條 左ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ
免狀ヲ受クルコトヲ得ス

- 一 十七歳未滿ノ者
- 二 白痴瘋癲者
- 三 第十五條第一項第一號乃至第五
號ノ處罰ヲ受ケ滿一年ヲ經過セサ

ル者

第十條 第八條ニ規定スル免狀ヲ受ク

ル者ハ左ノ免許手数料ヲ納付スヘシ

甲種免狀 金三圓

乙種免狀 金七圓

第十一條 免狀ハ出獵ノ際之ヲ携帯ス

ヘシ

警察官又ハ憲兵ハ何時ニテモ免狀ヲ

検査スルコトヲ得

第十二條 免狀ヲ亡失シ又ハ毀損シタ

ルトキハ其ノ再下付ヲ請求スルコト

ヲ得此ノ場合ニ於テハ手数料金一圓

ヲ納付スヘシ

第十三條 手数料ハ收入印紙ヲ以テ納

付スヘシ

第十四條 野生鳥類又ハ其ノ剝製品若

ハ羽毛ノ輸出又ハ移出ノ營業ヲ爲サ

ムトスル者ハ地方長官ノ許可ヲ受ク

ヘシ

第十五條 左ノ各號ノ一ニ該當スル者

ハ百圓以下ノ罰金又ハ科料ニ處ス但

シ第三條ノ場合ニ在リテハ告訴ヲ待

テ之ヲ處斷ス

一 第一條、第二條第二項、第三條

又ハ第四條ニ違反シタル者

二 第二條第一項ノ禁止區域ニ於テ

鳥獸ヲ捕獲シタル者

三 第五條ニ違反シタル者

四 免狀ヲ有セス又ハ第六條ニ規定

スル許可ニ依ラスシテ、銃器、張

網又ハ鷹ヲ以テ鳥類ヲ捕獲シタル

者

五 不實ノ申告ヲ爲シテ免狀ヲ受ケ

タル者

六 第十四條ニ違反シタル者

前項第一號乃至第五號ノ所爲ハ未遂

罪ヲ罰ス

第一項第一號乃至第五號ノ處罰ヲ受

ケタル者ノ免狀ハ其ノ效力ヲ失フ

第十六條 第七條第二項、第十一條第

一項ニ違反シタル者又ハ第十一條第

二項ノ検査ヲ拒ミタル者ハ科料ニ處

ス

附 則

本令ハ明治四十四年五月一日ヨリ施行

ス

臺灣

臺灣銃獵取締規則

明治三十六年六月二十六日

臺灣總督府令第四十七號

改正 明治四十年第三六號

大正元年第一九號

大正四年第五七號

第三條 第十七條第二項ニ該當スル者

ハ滿一ケ年ヲ經過スルニアラサレハ

再ヒ免狀ヲ受クルコトヲ得ス

第四條 免狀ヲ受クル者ハ左ノ區分ニ

依リ免許料ヲ納ムヘシ

營業ノ爲銃獵ヲ爲ス者 金十圓

其ノ他ノ者 金二十圓

第五條 免狀ノ有効期限ハ毎年九月十

五日ヨリ翌年三月三十一日マテトス

前項ノ期間内ニアラサレハ銃獵ヲ爲

スコトヲ得ス

第六條 保護ヲ必要トスル鳥類ハ捕獲

スルコトヲ禁ス

第一條 銃獵ヲ爲サムトスル者ハ管轄

廳ニ願出テ免狀ヲ受クヘシ

第二條 左ニ掲クル者ニハ免狀ヲ附與

セス

一 二十歳未滿ノ者

二 白痴瘋癲者

第七條 左ニ掲タル場所ニ於テハ狩獵ヲ爲スコトヲ得ス

- 一 市街ヲ距ルコト五町以内ノ地
- 二 人家稠密又ハ衆人群集ノ場所
- 二 公園
- 四 公道
- 五 社寺廟境内
- 六 墓地
- 七 禁獵ノ制札アル場所

第八條 日出前日没後ハ銃獵ヲ爲スコトヲ得ス

第九條 銃丸ノ達スヘキ虞アル建物、船舶、汽車ニ向ツテ狩獵ヲ爲スコト

ヲ得ス

第十條 欄、柵、圍障若ハ作物植付アル他人ノ土地ニ於テハ業主又ハ占有者ノ承諾ヲ得ルニアラサレハ銃獵ヲ爲スコトヲ得ス

第十一條 出獵ノ際ハ免狀ヲ携帯スヘシ若シ當該官吏ニ於テ免狀ノ検査ヲ爲ストキハ之ヲ拒ムコトヲ得ス

第十二條 免狀ハ貸借讓與ヲ爲スコトヲ得ス

第十三條 免狀ヲ受ケタル者他管轄内ニ轉住スルトキ又ハ免狀ヲ亡失シ若ハ毀損シタルトキハ五日以内ニ管轄

廳ニ届出ツヘシ

轉住ノ場合ニ於テハ書換、亡失毀損ノ場合ニ於テハ再下附ヲ請フコトヲ得

第十四條 免狀ハ效力ヲ失ヒタルトキヨリ三十日以内ニ管轄廳又ハ支廳ニ返納スヘシ

第十五條 免狀ハ別記様式ニ依ル

第十六條 學術研究其他特別ノ理由アル者ハ何時ニテモ臺灣總督ノ許可ヲ得テ保護鳥其他ノ鳥類ヲ捕獲スルコトヲ得但シ捕獲シタル鳥類ハ之ヲ賣買スルコトヲ得ス

農作物ニ害ヲ加フル獸類ヲ驅除セン

トスルトキ其ノ他特別ノ理由アルトキハ何時ニテモ臺灣總督ノ許可ヲ得テ獸類ノ捕獲ヲ爲スコトヲ得

第十七條 第一條、第五條第二項、第六條、第七條、第八條、第九條、第十條及第十六條ノ但書ニ違背シタル者ハ百圓以下ノ罰金ニ處ス但シ第十條ニ付テハ業主又ハ占有者ノ告訴ヲ待テ處斷ス
前項第六條、第七條、第八條、第九條ニ違背シ處罰ヲ受ケタル者ノ免狀ハ其ノ效力ヲ失フモノトス

第十八條 第十二條ニ違背シタル者ハ 縣令廳令ハ廢止ス
第二十三條 本則ハ明治三十六年七月
五十圓以下ノ罰金ニ處ス 一日ヨリ施行ス

第十九條 第十一條、第十三條及第十

四條ニ違背シタル者ハ科料ニ處ス

保護鳥ノ種類及保

第十九條ノ二 本令ノ規定ハ空氣銃ヲ
以テ鳥類ヲ捕獲スル者ニ之ヲ準用ス

護期間ノ件

附則

明治三十八年八月十六日

第二十條 保護鳥ノ種類ハ別ニ告示ス

臺灣總督府告示第一百一號

第二十一條 本則第六條ハ各種ノ網其

ノ他ノ方法ヲ以テ之ヲ捕獲スル者ニ

明治三十六年六月府令第四十七號銃獵

モ適用ス

取締規則第二十條ニ依ル保護鳥ノ種類
ヲ左ノ通相改ム

第二十二條 明治三十二年府令第一百十

一 左ニ掲クル鳥類ハ四季ヲ通シテ保

二號及從前發布シタル銃獵ニ關スル

護ス

鷓、三光鳥、白眉(土名)、鳥秋(土
名)、サンシヨクヒ、鶺鴒、雲雀、

燕、小啄木、杜鵑、郭公、筒鳥、梟、

鶴、白鷺(蓑毛ノ黃色ノモノヲ含ム)

二 左ニ掲クル鳥類ハ毎年二月十五日

ヨリ十月三十一日マテ之ヲ保護ス

鷓、椋鳥、加令(土名)、黃鶯(土名)

三 左ニ掲クル鳥類ハ毎年三月一日ヨ

リ十月三十一日マテ之ヲ保護ス

雉、鷓雉、竹鷄

關東州

英、蘭、葡、荷、佛、諸國、各領

○十日三十一日、オランダ領

○五日三十一日、オランダ領

○十日三十一日、オランダ領

○五日三十一日、オランダ領

○十日三十一日、オランダ領

○五日三十一日、オランダ領

○十日三十一日、オランダ領

關東州

關東州銃獵取締規則

大正元年九月三十日

關東都督府令第七號

改正 大正二年第一〇號

大正六年第八號

第一條 銃獵ハ所轄民政署又ハ民政支署ヲ經由シ當府ニ願出テ免狀ヲ受クルニ非ラサレハ之ヲ爲スコトヲ得ス
未成年者及瘋癲白痴者ハ銃獵免狀ヲ受クルコトヲ得ス

第二條 免狀ノ有効期間ハ毎年八月十五日ヨリ翌年五月三十一日迄トス

前項ノ期間内ニ非ラサレハ銃獵ヲ爲スコトヲ得ス

第三條 免狀ヲ受クル者ハ免許料金十

五圓ヲ納ムヘシ但シ銃獵ヲ職業トスル者ノ免許料ハ金二圓トス

第四條 銃獵中ハ免狀ヲ携帯スヘシ

第五條 免狀ハ他人ニ貸與又ハ讓與スルコトヲ得ス

第六條 免狀ヲ亡失毀損シ又ハ免狀記載事項ニ異動ヲ生シタルトキハ五日以内ニ所轄民政署又ハ民政支署ニ届出ツヘシ其ノ再下附又ハ書替ヲ請ハムトスルトキハ手数料トシテ金二十

147
202

錢ヲ納ムヘシ

第七條 免狀ハ其ノ效力ヲ失ヒタル日

ヨリ二十日以内ニ所轄署又ハ民政支署ヲ經由シ當府ニ返納スヘシ

第八條 左ニ掲クル場所ニ於テハ銃獵

ヲ爲スコトヲ得ス

一 市街地人家稠密又ハ衆人群集ノ

場所

二 公園、道路、社寺境内、公設墓

地及火葬場

三 特ニ指定シタル禁獵ノ場所

第九條 日出前日没後又ハ銃丸ノ達ス

ヘキ虞アル人畜、建物、船舶若ハ汽

車所在ノ方位ニ向テ發火スルヲ得

第十條 欄、柵、圍障又ハ作物植付ア

ル他人ノ土地ニ於テハ所有者又ハ占

有者ノ承諾ヲ得ルニ非ラサレハ銃獵

ヲ爲スコトヲ得ス

第十一條 裝彈シタル銃器ヲ携帶シテ

街路ヲ通行シ汽車又ハ公衆乗合ノ船

舶等ニ搭乘シ又ハ建物内ニ立入ルコ

トヲ得ス

第十二條 學術研究又ハ有害鳥獸驅除

ノ爲銃獵ヲ爲サムトスル者ハ何時ニ

テモ免狀ノ下付ヲ受クルコトヲ得

